

SynchRoid 11.4.0.2について

- **11.4.0.2について**
- 11.3→11.4の新機能について
- 不具合解決した事象
- 11.4.0.2バージョンアップ時のロボットへの影響
- 11.4.0.2の既知の事象について

新機能追加・不具合修正により利便性が向上

主な新機能



機能追加・不具合修正件数

コンポーネント	機能追加	不具合修正
Management Console	6件	3件
Design Studio	12件	—
Kapplets	3件	2件
その他	3件	—

- 11.4.0.2について
- 11.3→11.4の新機能について**
- 不具合解決した事象
- 11.4.0.2バージョンアップ時のロボットへの影響
- 11.4.0.2の既知の事象について

Management Console(MC)

1. RoboServerライセンス
2. Kintoneをプロバイダとして追加
3. OAuthサーバーメニューオプション
4. IMAPのOAuth2サポート
5. 「選択したオブジェクトを削除」ボタン
6. ログビュー検索ダイアログのサイズ調整

1. RoboServerライセンス(1/2)

クラスタ間でライセンスユニットを割り当て用のボタンが追加されました。

v11.3

ライセンスユニットの割り当て

BizRobot! RPA Management Console 管理 > RoboServer

クラスタ	サーバー	バージョン	ステータス	KCU	ライセンスタイプ
Non...			実行中	5	Non Production
	2:50042	11.10.0.511	オンライン	5	Non Production

クラスタ設定
サーバーを通知
KCUを割り当て
削除

v11.4

ライセンスユニットの割り当て

BizRobot! RPA Management Console 管理 > RoboServer

クラスタ	サーバー	バージョン	ステータス	KCU	ライセンスタイプ
Non...			実行中	5	Non Production
	192.168.98.12:50041	11.4.0.2.296	オンライン	1	Non Production
	192.168.98.12:50043	11.3.0.3.404	オンライン	1	Non Production
	192.168.98.12:50042	11.1.0.6.511	オンライン	1	Non Production
	192.168.98.12:50040	10.7.0.4.240	オンライン	1	Non Production

クラスタにKCUを割り当て

1. RoboServerライセンス(2/2)

•RoboServerにもライセンスユニットをアサインできるようになりました。自動でも、手動でもアサインできます。

•マルチバージョンクラスター、または複数RoboServer利用の場合は、利用頻度が高いRoboServerへより多くのKCUをアサインすることで、効率的にKCUを使用することができます。

※1KCU単位のみアサイン可能、1より小さい単位でのアサインはできません。

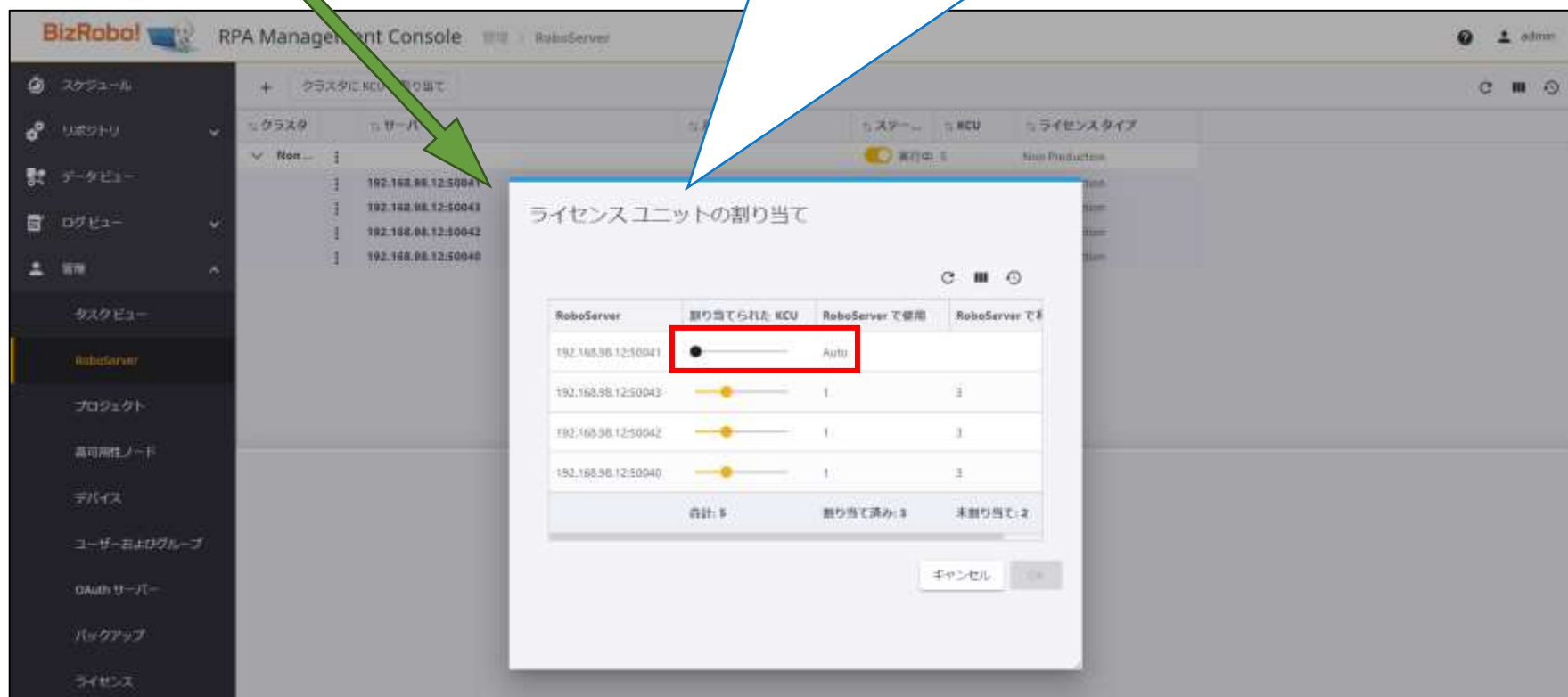
※複数RoboServerに自動的にアサインする場合は、先行で接続したものから順次1KCU単位で割り当てられます。

(1より小さい単位で均等割りはされません)

※旧Verから移行した場合、自動的にアサインされます。



KCUを「0」に設定した場合は「Auto」となり、割り当て可能なKCUがあれば自動的にアサインされます。「0」以外の場合は、指定した値でアサインされます。



2. Kintoneをプロバイダとして追加(1/8)

KintoneがOAuthプロバイダとして追加されました。

Management Consoleのスケジュール、KappletまたはRESTのリクエストでロボットを起動し、KintoneのAPIを利用してKintoneにアクセスが可能です。

※v11.4.0ではURLに「kintone」が入っているサイトのみ実装されています。

例：

OK → <https://{テナント}.kintone.com>

未実装 → <https://{テナント}.cybozu.com>

新しいアプリケーション

プロジェクト
Default project

名前*
名前

サードプロバイダ

- LinkedIn
- Microsoft Azure AD 2.0
- Salesforce
- Salesforce sandbox
- Twitter
- Kintone**

2. Kintoneをプロバイダとして追加(2/8)

MCの「リポジトリ>OAuth」から新しいKintoneアプリケーションとユーザーを追加する手順を紹介します。

はじめに、新しいOAuthアプリケーションの追加メニューから「サービスプロバイダ」に「Kintone」を選択します。

※KintoneのOAuthアプリケーション登録を行うために、MCのTLS対応が必要です。「コールバックURL」に指定するURLは、HTTPSでない場合Kintoneの設定側は許容しません。

新しいアプリケーション

プロジェクト
Default project

名前*
Testkintone

サービスプロバイダ*
Kintone

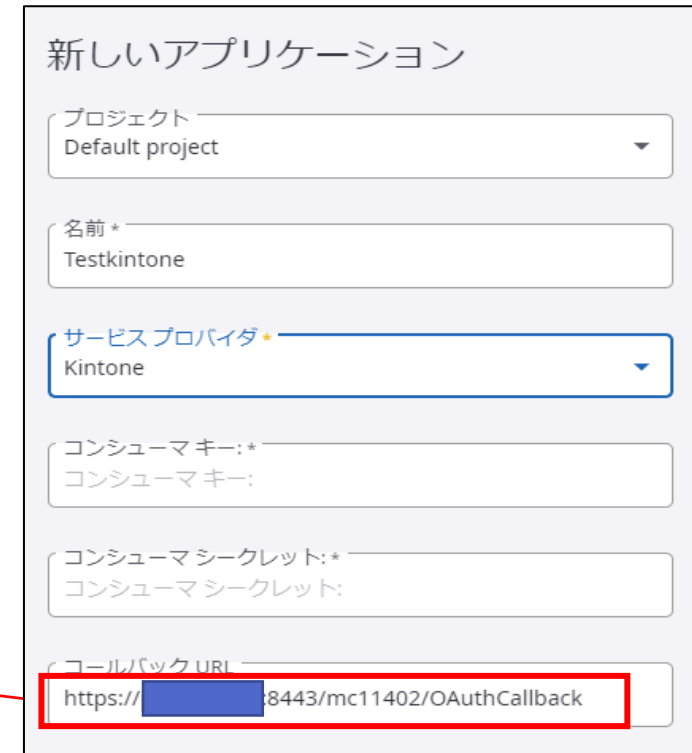
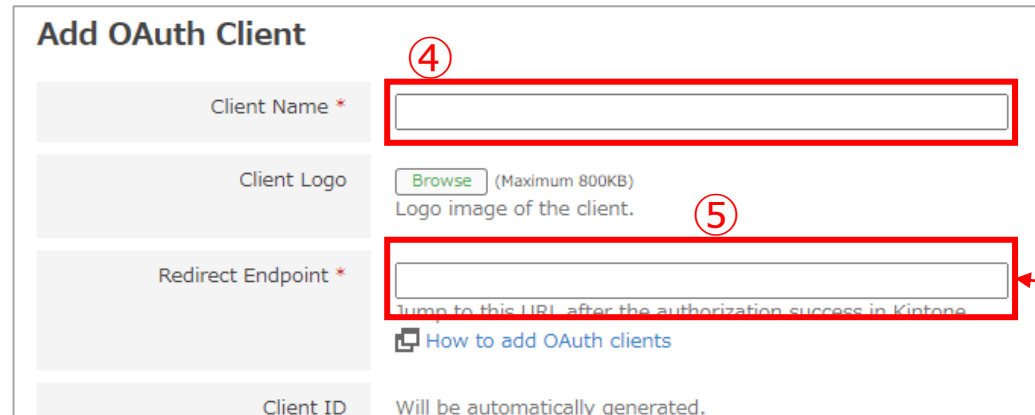
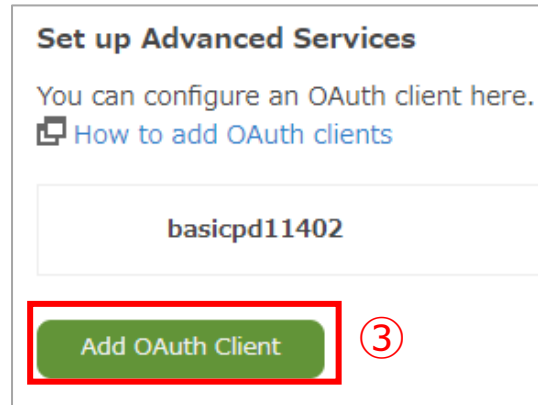
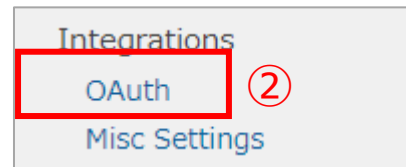
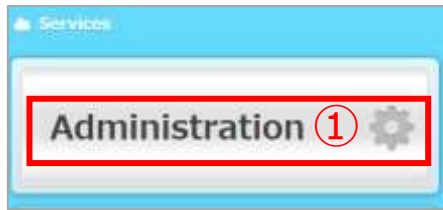
コンシューマキー:*
コンシューマキー:

コンシューマシークレット:*
コンシューマシークレット:

コールバック URL
https://[redacted]/mc11402/OAuthCallback

2. Kintoneをプロバイダとして追加(3/8)

Kintoneの①管理者画面から、②OAuthの設定に遷移し、③新しい「OAuth Client」を追加します。
④クライアント名を入力し、⑤リダイレクトURLにMC側の「コールバックURL」を入力し、OAuth Clientを登録します。



2. Kintoneをプロバイダとして追加(4/8)

続いて、以下の設定作業を行います。

- ⑥登録された「OAuth Client」のクライアントID → MCのアプリケーションの「コンシューマキー」に入力
- ⑦登録された「OAuth Client」のクライアントシークレット → MCのアプリケーションの「コンシューマシークレット」に入力
- ⑧MCのアプリケーションの「スコープ」の入力は[こちらのリンク](#)をご参照ください

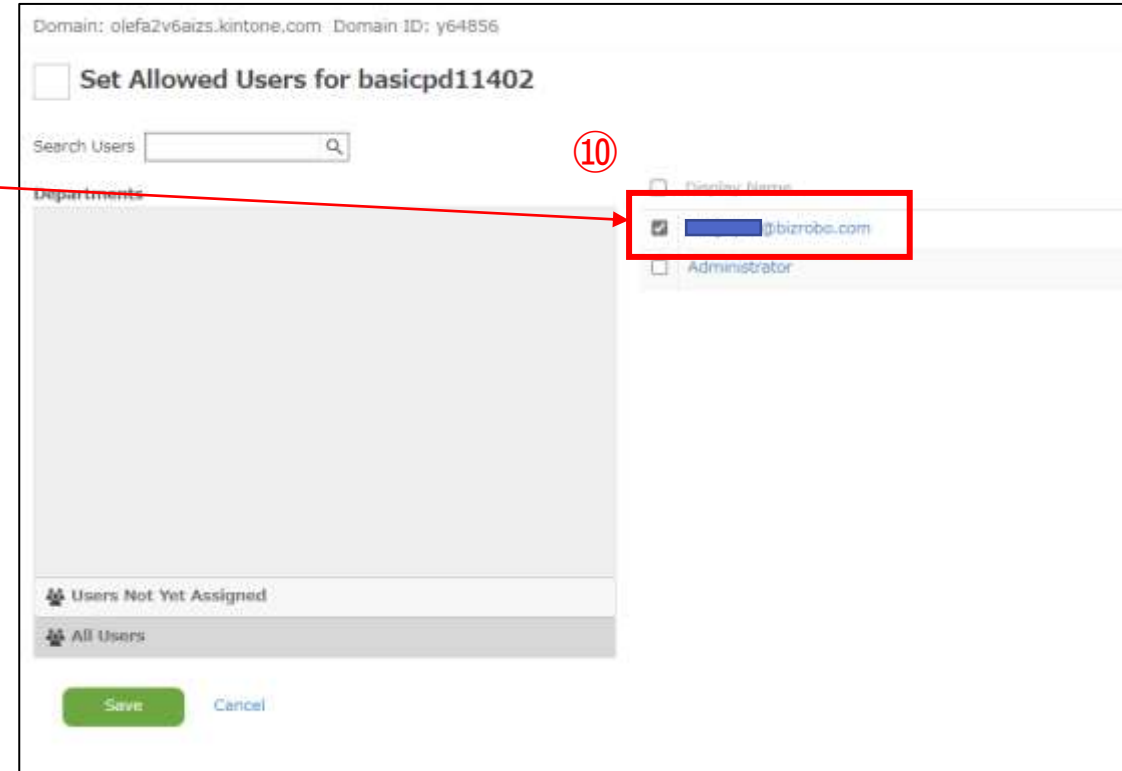
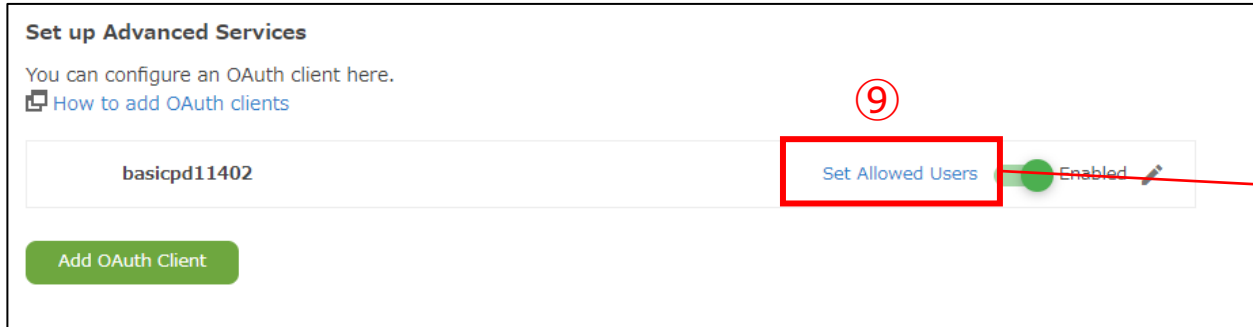
これで、MC側のOAuthのアプリケーション登録ができます。

The image shows two side-by-side screenshots. The left screenshot is titled 'アプリケーションの編集' (Edit Application) and shows fields for '名前' (Name) set to 'Testkintone', 'サービスプロバイダ' (Service Provider) set to 'Kintone', 'コンシューマキー' (Consumer Key) with a red circle 6 and an arrow pointing to the right, 'コンシューマシークレット' (Consumer Secret) with a red circle 7 and an arrow pointing to the right, and 'コールバック URL' (Callback URL) set to 'https://[redacted]8443/mc11402/OAuthCallback'. The right screenshot is titled 'Edit basicpd11402' and shows fields for 'Client Name' (basicpd11402), 'Client Logo' (Browse), 'Redirect Endpoint' (https://[redacted]8443/mc11402/OAuthCallback), 'Client ID' (redacted) with a red circle 6 and an arrow pointing from the left, 'Client Secret' (redacted) with a red circle 7 and an arrow pointing from the left, 'Authorization Endpoint' (https://[redacted].kintone.com/oauth2/authorization), and 'Token Endpoint' (https://[redacted].kintone.com/oauth2/token). At the bottom are 'Save' and 'Cancel' buttons.

2. Kintoneをプロバイダとして追加(5/8)

MCの「リポジトリ>OAuth」から新しいKintoneユーザーを追加する前に、Kintone側でMCで設定したユーザーのOAuthクライアントにアクセスできるよう許可を付与します。

- ⑨作成されたOAuthクライアントから「許可されるユーザーの設定(Set Allowed Users)」をクリックします
- ⑩対象ユーザーにチェックします



2. Kintoneをプロバイダとして追加(6/8)

MCの「リポジトリ>OAuth」から新しいKintoneユーザーを追加します。

- ①作成したアプリケーションを選びます。
- ②ユーザー名を入力します。
- ③サイトのテナントを入力します。

入力後、「次へ」ボタンを押下します。

1. アプリケーションとユーザー名を選択 2. 認証 3. アクセス トークンを取得

① アプリケーション*
Testkintone @ Kintone

② ユーザー名*
[Redacted]@bizrobo.com

③ テナント
[Redacted]

キャンセル 次へ

kintone

Administration Home Domain: [Redacted].kintone.com Domain ID: [Redacted]

Service Usage

OAuth

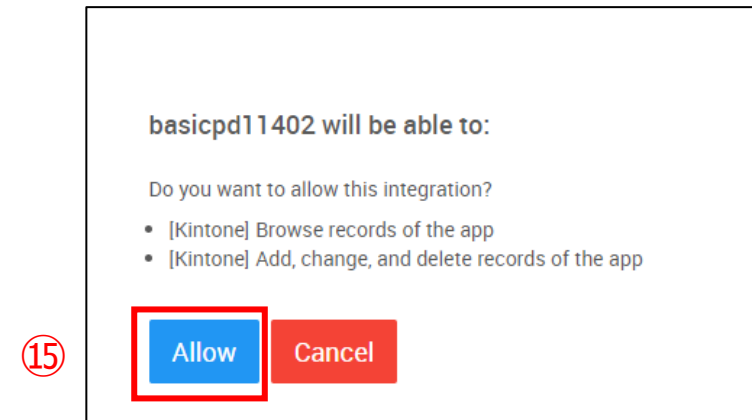
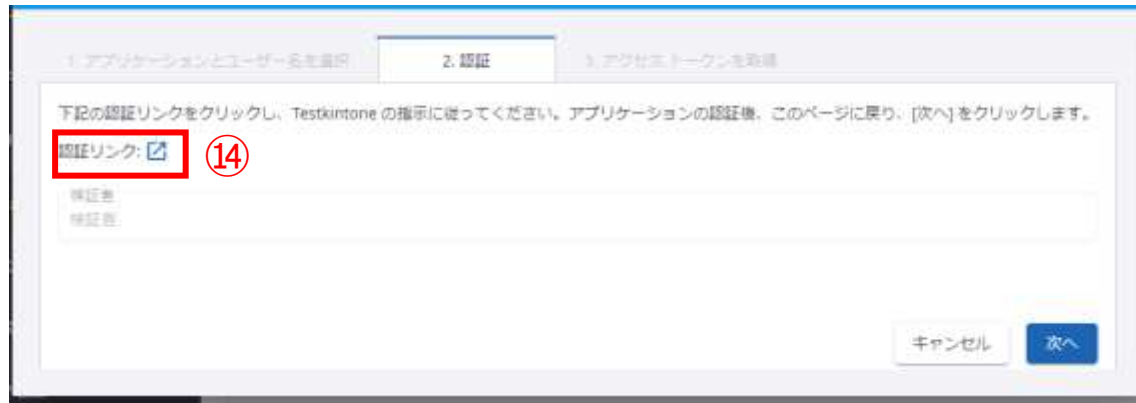
User Administration

Departments & Users

2. Kintoneをプロバイダとして追加(7/8)

MCの「リポジトリ>OAuth」から新しいKintoneユーザーを追加します。

- ⑭ 認証リンクをクリックし、⑫で指定したユーザーでログインします。
- ⑮ 表示されたメッセージの「許可(Allow)」ボタンをクリックします。



2. Kintoneをプロバイダとして追加(8/8)

MCの「リポジトリ>OAuth」から新しいKintoneユーザーの追加します。

⑩認証設定が完了した後に、「このウィンドウを閉じる」リンクをクリックします。

⑪このユーザーに紐づけられたアクセストークン情報が表示され、ユーザーの登録は完了となります。

OAuth 認証に進む

現在「このウィンドウを閉じ」で 'Management Console' に戻り、ウィザードで [次へ] をクリックします。

⑩

3. アクセストークンを取得

アクセストークンは、Management Console に組み込みのパスワード ストアに安全に保管されています。

Design Studio でロボットを構築するときにこれらのクレデンシャルを使用するには、以下の値をロボットの OAuthCredentials 入力変数にコピーします。その後、スケジュールに従ってロボットが実行されると、選択したクレデンシャルがパスワード ストアから取得されます。

アクセストークン

トークン更新

終了

⑪

3. OAuthサーバーメニューオプション(1/2)

v11.4からは、Kapplets以外にManagement Console(MC)の「OAuthサーバー」にて

- ・サービスDAS(Desktop Automation Service)
- ・シンクロナイザー(Synchronizer)

の認証を行い、よりセキュリティが高い接続機能を提供します。

次のページでは、「サービスDAS」の例を紹介します。
「シンクロナイザー」については「その他> 2. シンクロナイザーOAuthコマンド」をご参照ください。

※MCのOAuthサーバーメニューオプションを使用して、トークンベースの認証のためのOAuthシークレットの表示、変更、および取り消しができます。



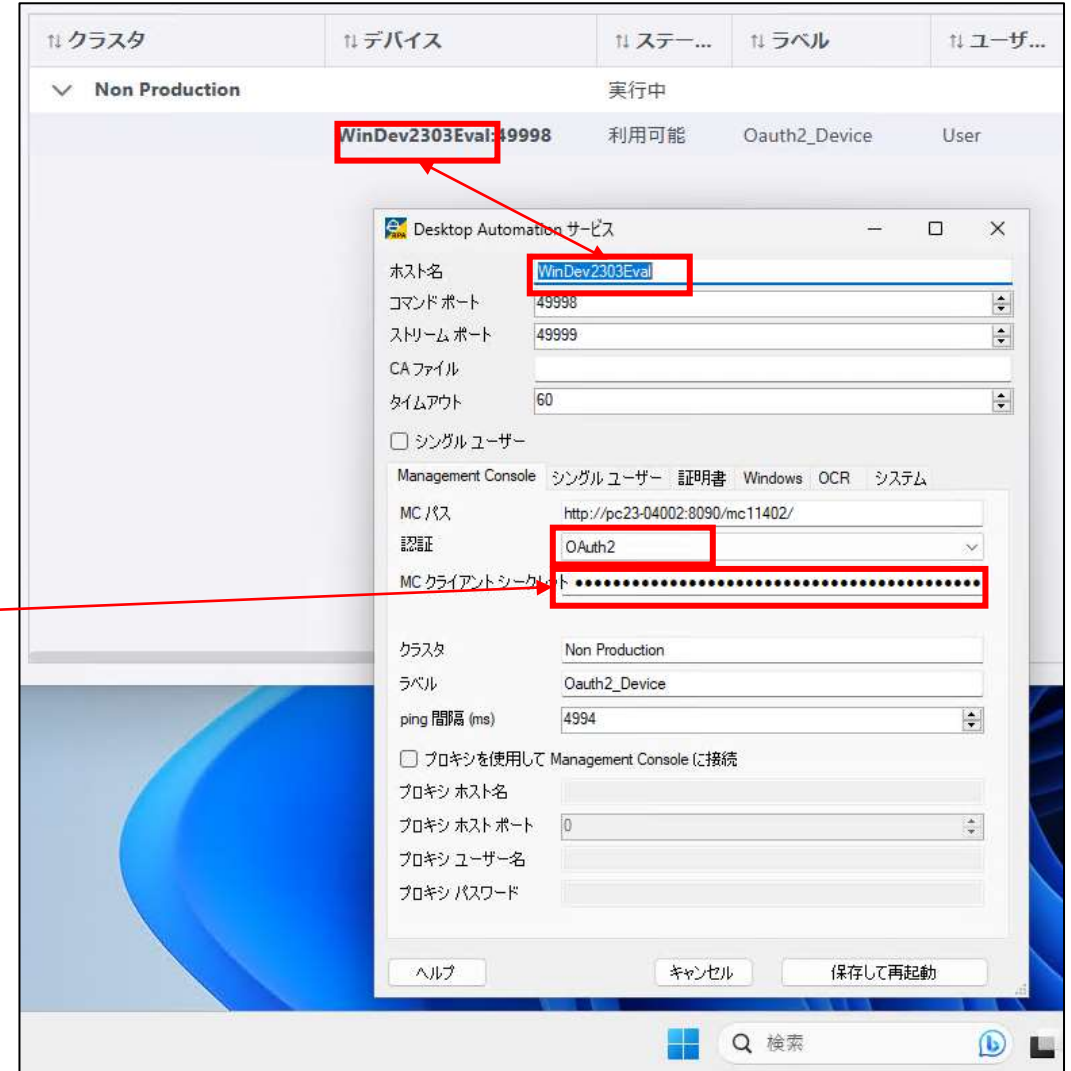
3. OAuthサーバーメニューオプション(2/2)

以前のバージョンでは、MCにてDAS認証用のユーザーを作成し、DASの設定画面に入力することが必須でしたが、v11.4からはMCに格納されているOAuth2のクライアントシークレットでDASの認証が行えるようになりました。

MCの「管理>OAuthサーバー」の「サービスDAS」からクライアントシークレットをコピーし、DASの「MCクライアントシークレット」に設定します。



クライアントシークレット
の変更も可能です



4. IMAPのOAuth2サポート

GoogleとMicrosoftは、IMAPプロトコルの基本認証メカニズムを廃止しました。

v11.3以前は基本認証のみ対応しているため、旧Verのロボットを移行する場合はそのままでは動作しません。
移行後に再設定が必要となります。

これを解決するため、GoogleとMicrosoftの2段階認証を使って、OAuth2アクセストークンを電子メールトリガーに渡して、IMAPフォルダに接続し、電子メールを操作できるようになりました。

※右図はGoogleの2段階認証の設定例です。

← アプリパスワード

アプリパスワードを使用すると、2段階認証プロセスに対応していないデバイス上のアプリからGoogleアカウントにログインできるようになります。このパスワードは一度入力すれば、以降は覚えて

生成されたアプリパスワード

Windows / パソコンのアプリパスワード

asds gxpo tlqe txxq

使い方

1. [メール] アプリを開きます。
2. [設定] メニューを開きます。
3. [アカウント] を選択し、Google アカウントを選択します。
4. パスワードを上に表示されている 16 文字のパスワードに置き換えます。

このアプリパスワードは、通常のパスワードと同様に Google アカウントへの完全なアクセス権が付与されます。このパスワードを覚えておく必要はないので、メモしたり誰かと共有したりしないでください。
[詳細](#)

完了

電子メール アカウントを編集

名前*
Google Gmail

説明
Google Gmail IMAP, SSL/TLS

プロジェクトに割り当て
Default project

電子メール*
mailtrigger001@gmail.com

パスワード*

テスト

キャンセル 保存

5. 「選択したオブジェクトを削除」ボタン(1/7)

管理者権限を持つユーザーは、新しいプロジェクトを作成してリポジトリを選択し、v11.4で追加されたボタン「選択したオブジェクトを削除」を使用してオブジェクトを同期の対象から外し、MC上で読み取り専用とすることができます。

「読み取り専用」オプションを選択すると、この新しいボタンが活性化されます。

対象オブジェクト

- スケジュール
- ロボット、タイプおよびスニペット
- リソース
- OAuth

プロジェクト githubpjtest1 を編集

基本 権限 サービス **リポジトリ**

URL *
git@github.com: [redacted] RPAtest1.git

ブランチ *
develop

読み取り専用

同期するオブジェクト

スケジュール

ロボット、タイプおよびスニペット

リソース

OAuth

選択したオブジェクトを削除

キャンセル OK

プロジェクトの作成・編集のリポジトリに「選択したオブジェクトを削除」ボタンが追加されました

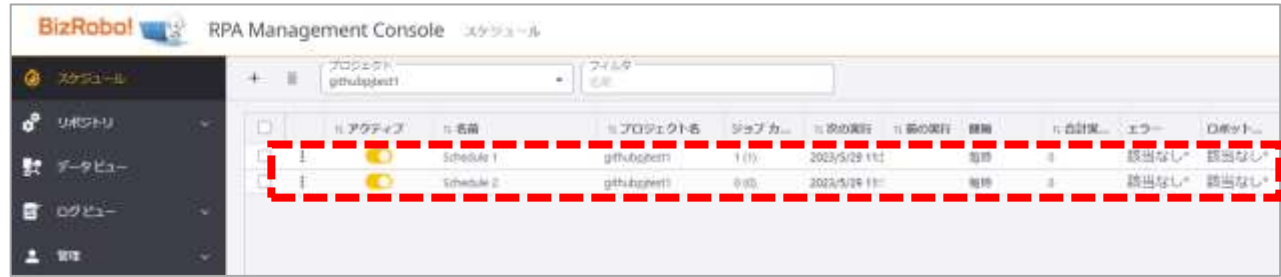
5. 「選択したオブジェクトを削除」ボタン(2/7)

「スケジュールをGitHubの同期対象から削除する」例で説明します。

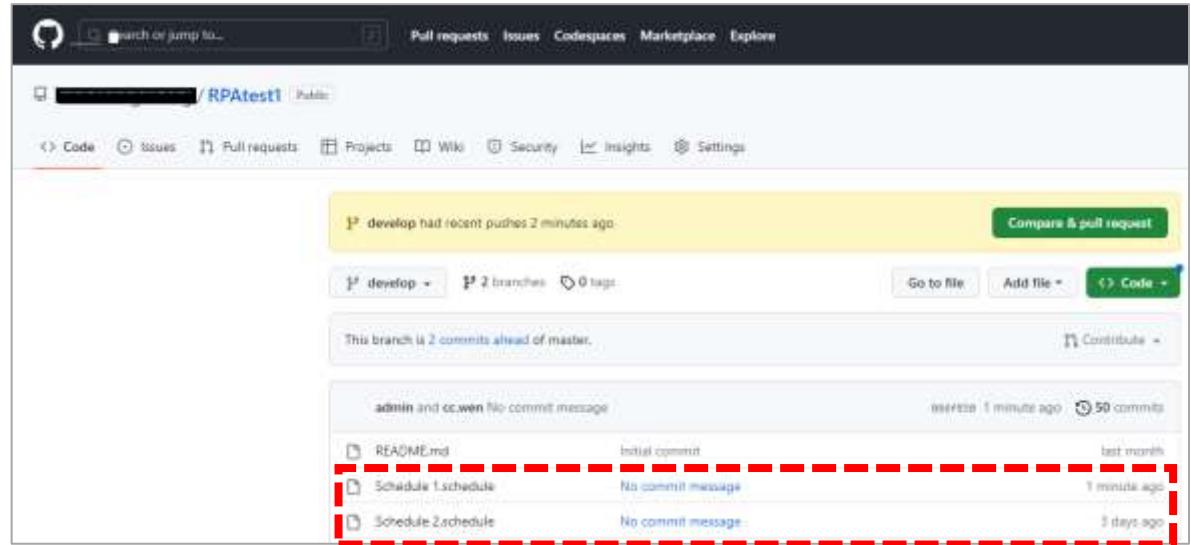
①MCとGitHubにスケジュールが同期されているとします。

※GitHubと連携させた同期に関しては、[BizRobo!ポータル](#)の[ドキュメント](#)
[サイト](#)にある「RobotLifecycleManagement_環境構築・運用手順書
_GitHub連携編.pdf」を参照してください。

MC



GitHub



5. 「選択したオブジェクトを削除」ボタン(3/7)

②「読み取り専用」を選択し、「同期するオブジェクト」の中から「スケジュール」をチェックし、「選択したオブジェクトを削除」ボタンをクリックし、「削除」ボタンを押します。

プロジェクト githubpjtest1 を編集

基本 権限 サービス **リポジトリ**

URL *
git@github.com:██████████RPAtest1.git

ブランチ *
develop

読み取り専用

同期するオブジェクト

スケジュール

ロボット、タイプおよびスニペット

リソース

OAuth

選択したオブジェクトを削除

キャンセル OK

▲ 警告

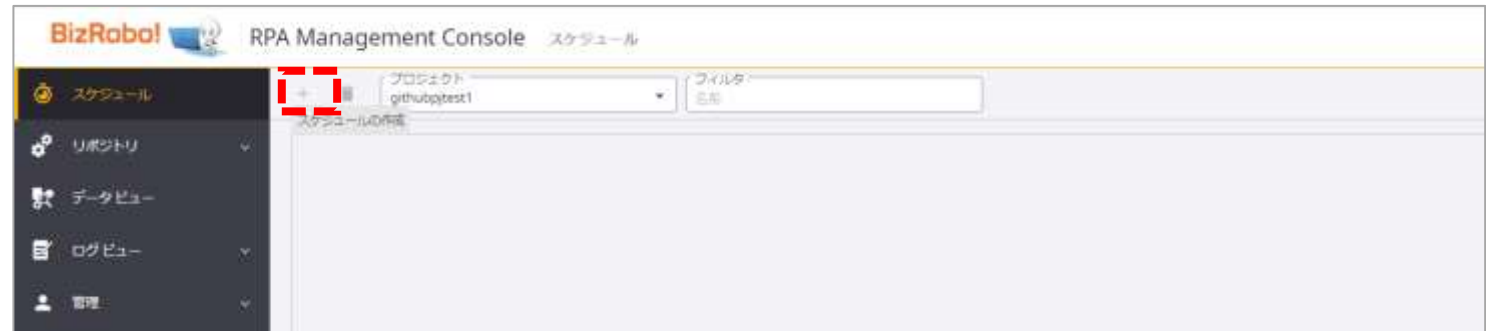
次のプロジェクト コンテンツを完全に削除しますが、スケジュールは

キャンセル **削除**

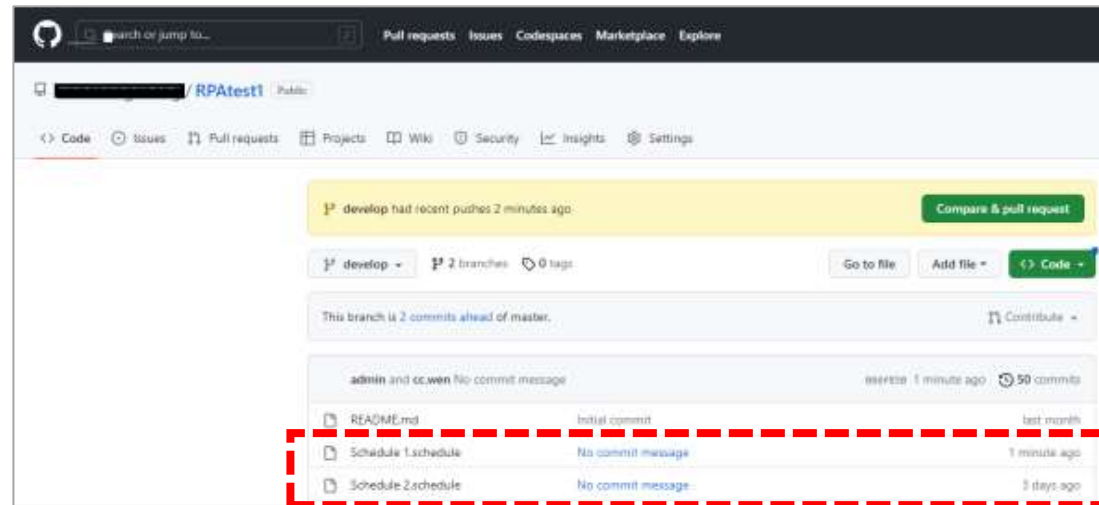
5. 「選択したオブジェクトを削除」ボタン(4/7)

③MCの「スケジュール」からスケジュールが削除され、読み取り専用になります。
スケジュールの作成ボタンも無効になり、GitHubからMCに同期しません。

MC



GitHub



5. 「選択したオブジェクトを削除」ボタン(5/7)

④スケジュールを再同期する場合は、プロジェクトの編集画面で「読み取り専用」のチェックを外し、同期するオブジェクトの「スケジュール」をチェックします。

プロジェクト githubpjtest1 を編集

基本 権限 サービス **リポジトリ**

設定を有効化

URL*
git@github.com:[redacted]/RPAtest1.git

ブランチ*
develop

読み取り専用

同期するオブジェクト

スケジュール

ロボット、タイプおよびスニペット

リソース

OAuth

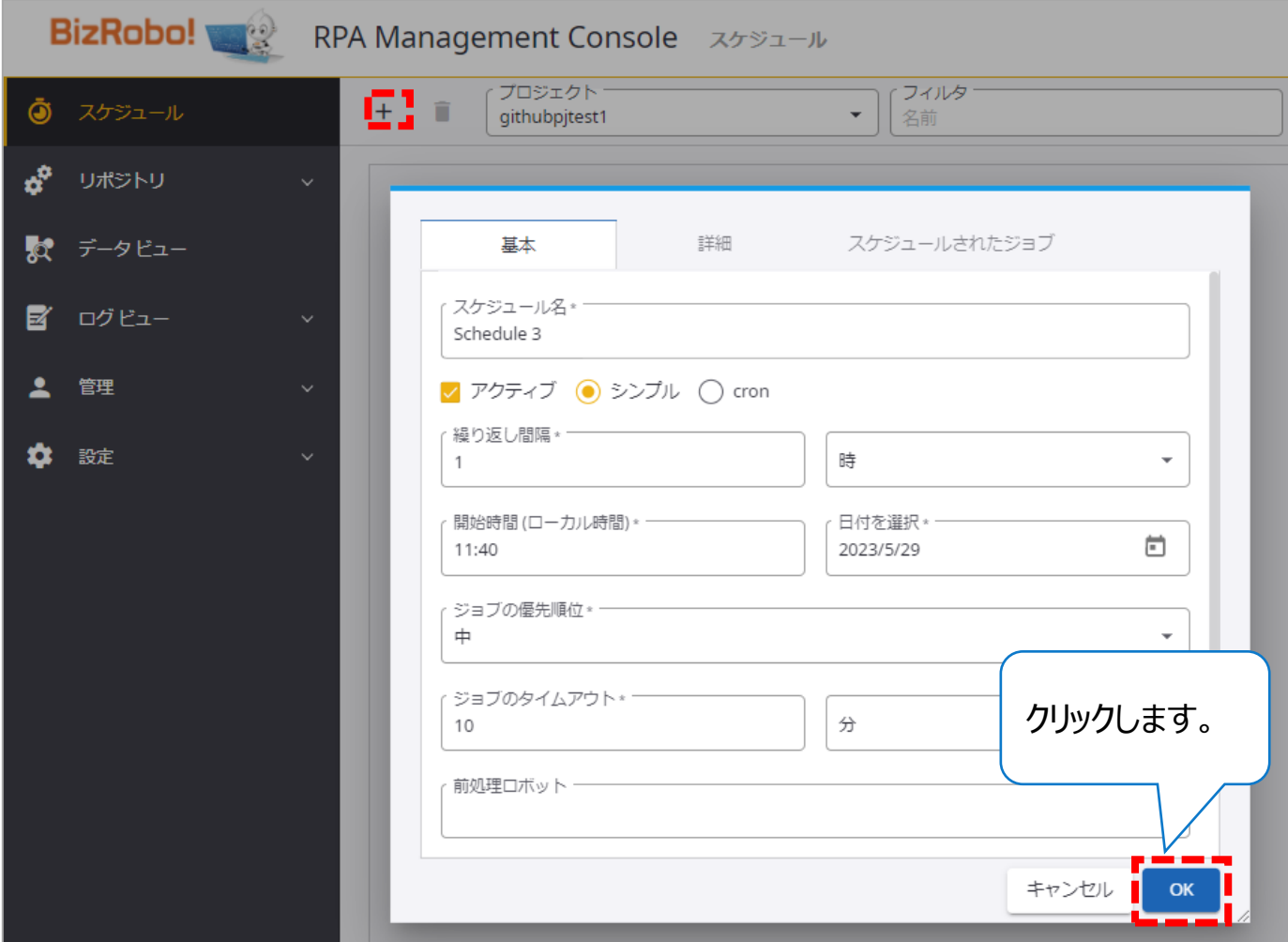
選択したオブジェクトを削除

キャンセル **OK**

クリックします。

5. 「選択したオブジェクトを削除」ボタン(6/7)

⑤MCの「スケジュール」にて作成ボタンが活性化され、新規スケジュールの登録ができるようになります。



BizRobo! RPA Management Console スケジュール

プロジェクト githubpjtest1 フィルタ 名前

スケジュール

リポジトリ

データビュー

ログビュー

管理

設定

基本 詳細 スケジュールされたジョブ

スケジュール名*
Schedule 3

アクティブ シンプル cron

繰り返し間隔* 1 時

開始時間 (ローカル時間)* 11:40 日付を選択* 2023/5/29

ジョブの優先順位* 中

ジョブのタイムアウト* 10 分

前処理ロボット

キャンセル OK

クリックします。

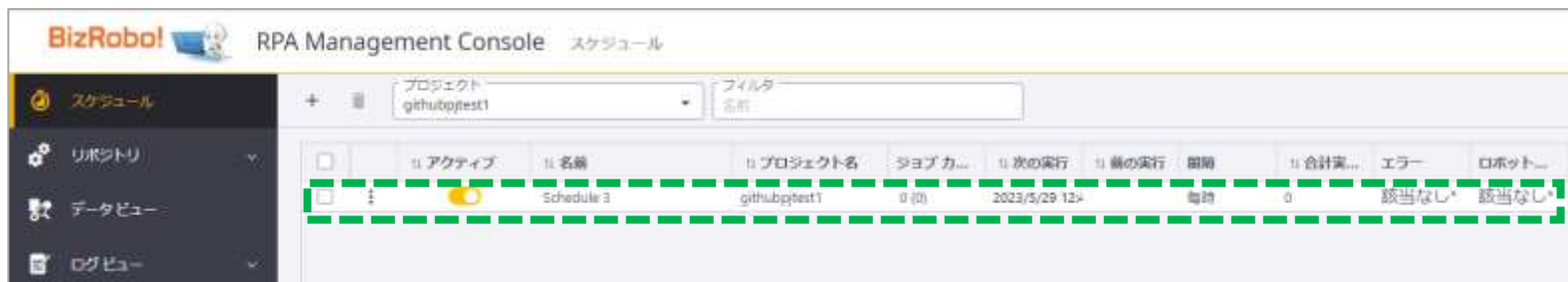
5. 「選択したオブジェクトを削除」ボタン(7/7)

⑥読み取り専用を解除した後にMCに追加されたスケジュールはGitHubに同期されます。

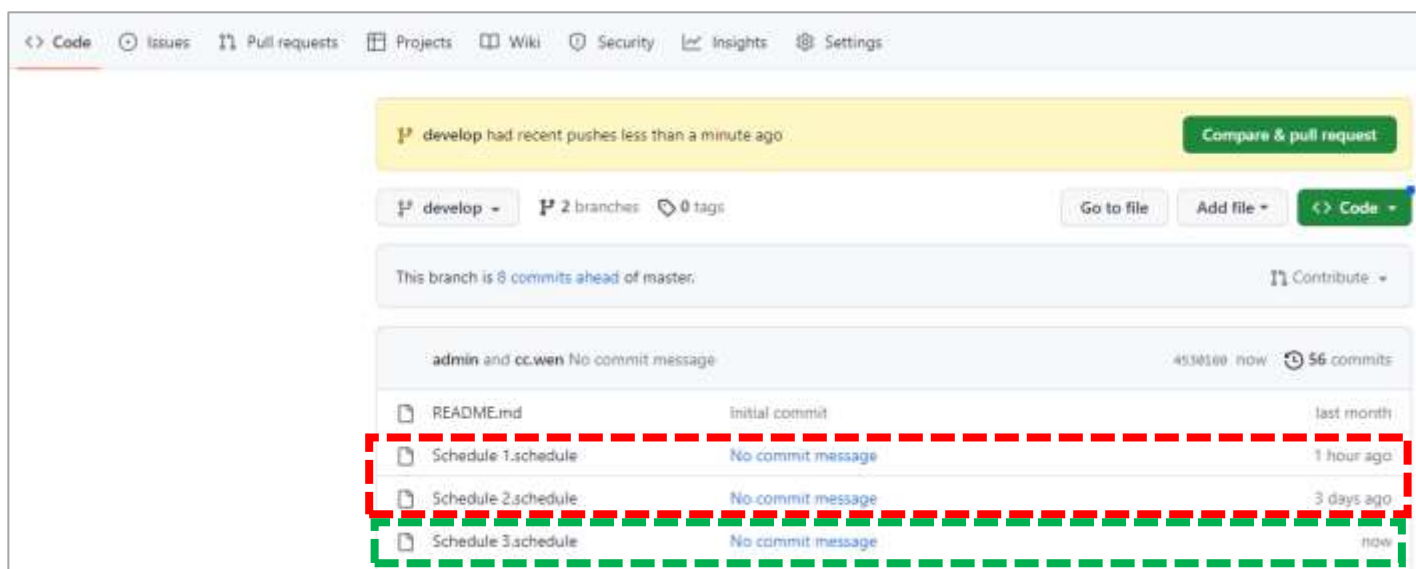
先ほどの手順によって削除されたスケジュールは、MCに同期しません。

※再同期するには、GitHub側のオブジェクトを再作成します。

MC

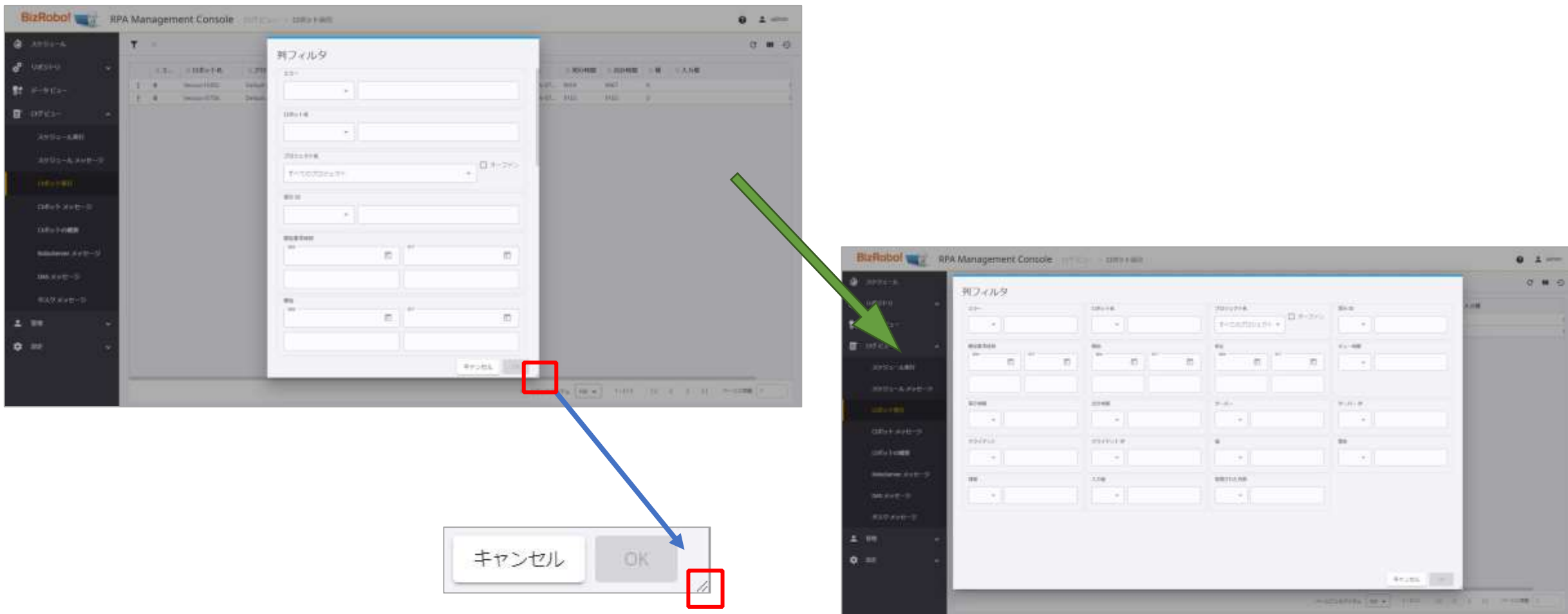


GitHub



6. ログビュー検索ダイアログのサイズ調整

ログビュー検索ダイアログのような一画面内に中身を表示し切れないダイアログのサイズが、ドラッグ & ドロップで調整できるようになります。



Design Studioベーシックエンジンロボット (DSロボット)

ベーシックエンジンロボット(DSロボット)

1. 「ロボットを呼び出す」ステップの変更
2. クラシックブラウザの廃止

1. 「ロボットを呼び出す」ステップの変更

ベーシックエンジンロボットの「ロボットを呼び出す」ステップにおいて、ステップビューのアクションタブにある以下UI名が変更されました。

- 出力マッピング → 戻り変数
- 必要なデバイス → デバイス
- データベース マッピング → データベース



2. クラシックブラウザの廃止

v11.4以降、クラシックブラウザはサポートが終了し、クラシックブラウザで新しいロボットを作成することはできなくなりました。

次のステップは廃止されました。

- ・フォームの送信
- ・ページのクロール
- ・テーブルの分割

旧Verでクラシックブラウザで作成したロボットは、v11.4でDSでの編集と実行、およびRSでの実行が可能です。

(修正時、上記3ステップの追加はできません)

注) クラシックブラウザは将来のバージョンで廃止される可能性があります。将来SynchRoidをバージョンアップした場合、ロボットが実行できなくなる可能性がありますので、順次WebkitまたはChromiumに移行していただくことを推奨いたします。

【対処方法1】

クラシックブラウザで作成したベーシックエンジンロボットを、WebKitベースのブラウザを使用するベーシックエンジンロボットにアップグレードする。

※ [BizRobo!ナレッジ](#)

「ベーシックエンジンロボットにて Classic ブラウザからWebkit ブラウザにアップグレードする手順」

【対処方法2】

クラシックブラウザで作成したベーシックエンジンロボットを、Chromiumを使用するDAロボットに開発しなおす。



WebKitへアップグレードする場合、DSのアップグレード機能を利用できます (Chromiumへのアップグレード機能はありません)

Design Studioロボット(DAロボット)

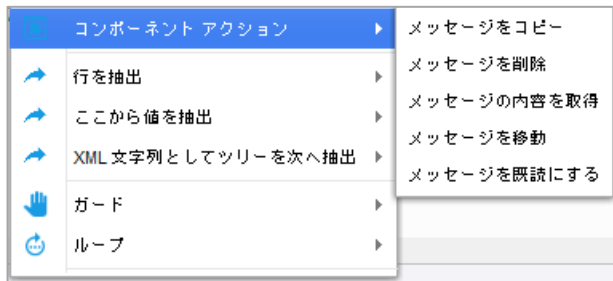
1. 「電子メールごとに」ステップ
2. 「ディレクトリの反復」ステップ
3. 「出力値」ステップ
4. データベース操作ステップの追加・拡張
 - 4-1. 「キーの計算」ステップ
 - 4-2. データベースの値の抽出と削除
 - 4-3. DAロボットでのストアードプロシージャ呼び出し
5. Desktop Automationブラウザのアップグレード
6. 「フローを展開」アイコン
7. 「出力値」の名前の変更
8. Internet Explorerの廃止
9. レコーダービュータブを閉じる
10. DASのWindows11対応

1. 「電子メールごとに」ステップ

・「電子メールごとに」ステップを使って、アプリケーションをレコーダービューで開き、選択した電子メールフォルダからメールを一つずつ表示し、繰り返し処理をすることができます。

未読既読に関わらず、全てのメールを一つずつ取得できます。

・他のメール関連のステップと併用することで、メールのコピー、削除、内容を取得、別フォルダへ移動、既読にすることなどが簡単に実装できます。



2. 「ディレクトリの反復」ステップ

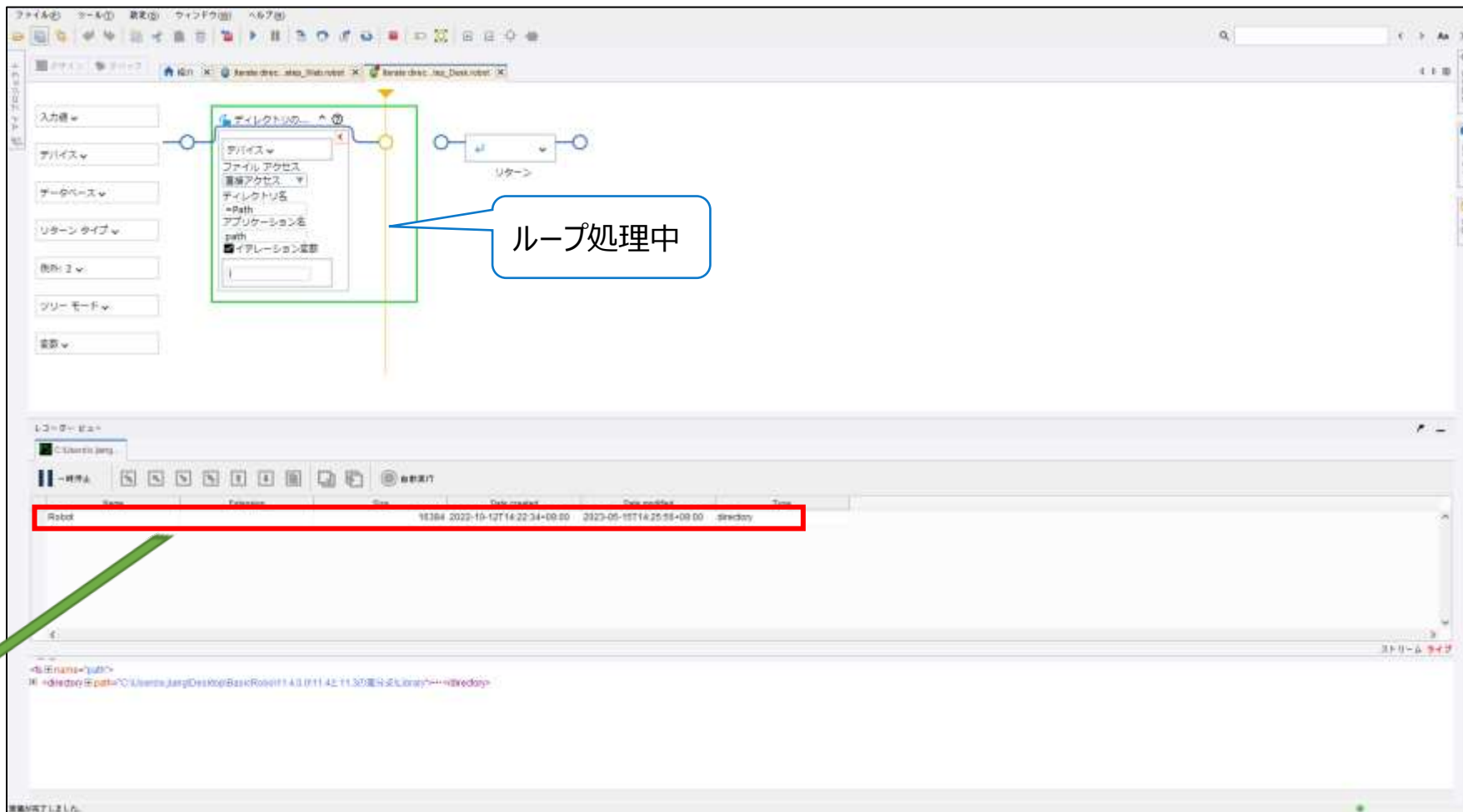
・このステップを使用すると、ディレクトリ内のすべてのエンタリ(ファイル、ディレクトリ、およびその他のオブジェクト)を反復処理します。

サブフォルダ内は反復対象になりませんので、必要に応じてステップをネストしてください。

DAロボットが起動した時点の状態を元に処理を行うため、ベーシックエンジンロボットの「Repeat」ステップのような実装はできません。

・ローカル/リモート端末とRFSのフォルダにアクセスすることができます。

・他のディレクトリ関連ステップと併用することで、ディレクトリを一覧表示、カウント、ディレクトリを削除、タイプを取得、パスを取得、移動、名前の変更ができます。



3. 「出力値」ステップ

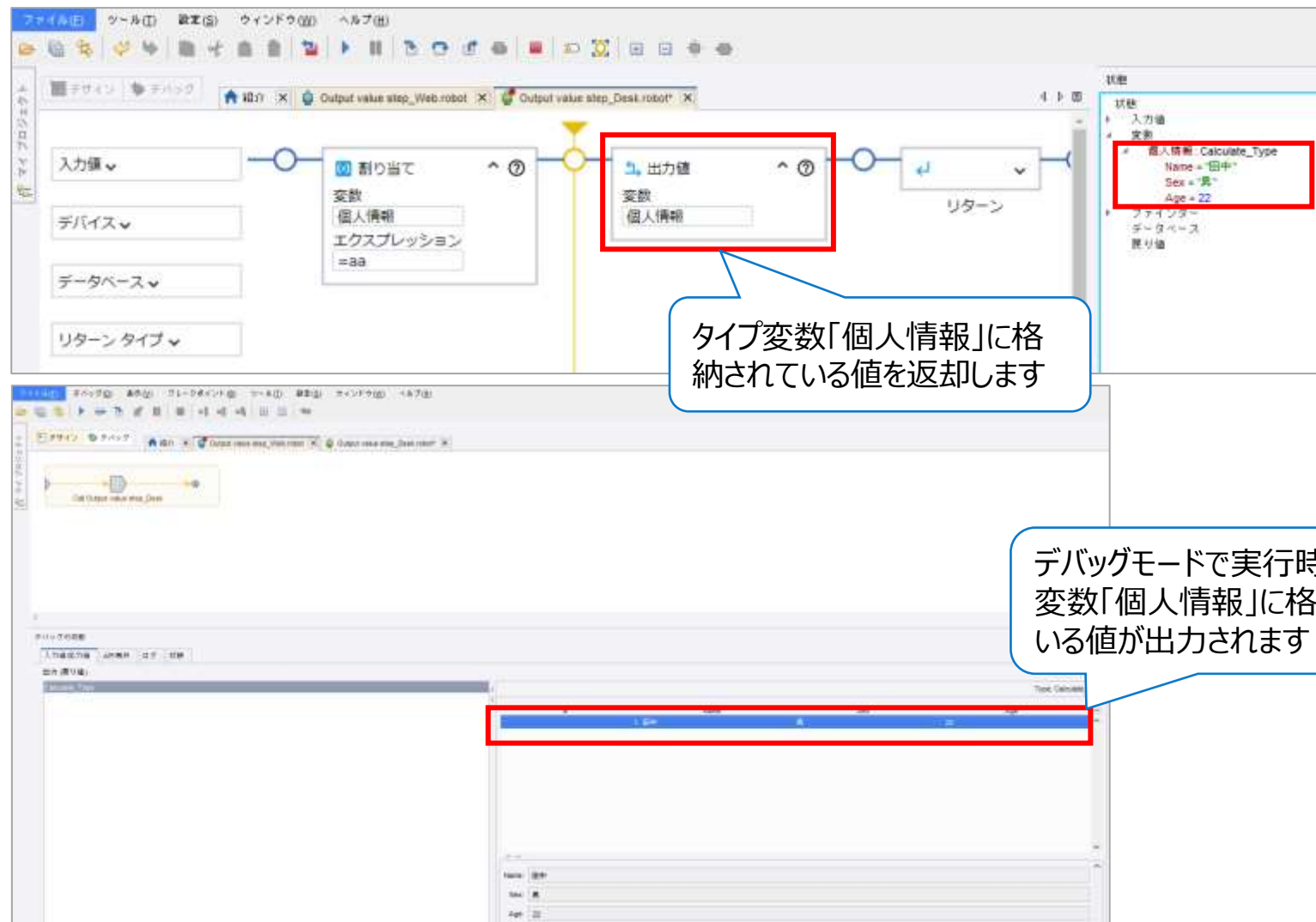
このステップを使用すると、DAロボットからベーシックエンジンロボットに値を返却することが可能です。

ベーシックエンジンロボットの「値返却」ステップと同等の機能のDAステップとなり、デバッグモードで実行時に参照できます。

※BizRobo!ナレッジ

[「値返却\(Return Value\)」ステップ](#)

※ただしv11.4ではKappletsのテーブル表示は未実装です。



4. データベース操作ステップの追加・拡張

DAロボットにもベーシックエンジンロボットと同じように、データベースへの操作を行うステップが追加されました。既存ステップの拡張も合わせて、次ページ以降の4-1～4-3で紹介します。

使用可能なDB関連ステップ					
ベーシックエンジンロボット		DAロボット (v11.3から)		DAロボット (v11.4から)	
データベース データ登録	Store in Database	データベース データ登録	Store in Database	データベース データ登録	Store in Database
データベース照会	Query Database	データベース照会	Query Database	データベース照会	Query Database
SQL 実行	Execute SQL	SQL 実行	Execute SQL	SQL 実行	Execute SQL
データベース データ抽出	Find in Database	-	-	データベース データ抽出	Find in Database
キーの計算	Calculate Key	-	-	キーの計算	Calculate Key
データベース データ削除	Delete from Database	-	-	データベース データ削除	Delete from Database

v11.4から機能拡張されたステップ

v11.4からDAロボットがデータベースの操作を実行するため追加されたステップ

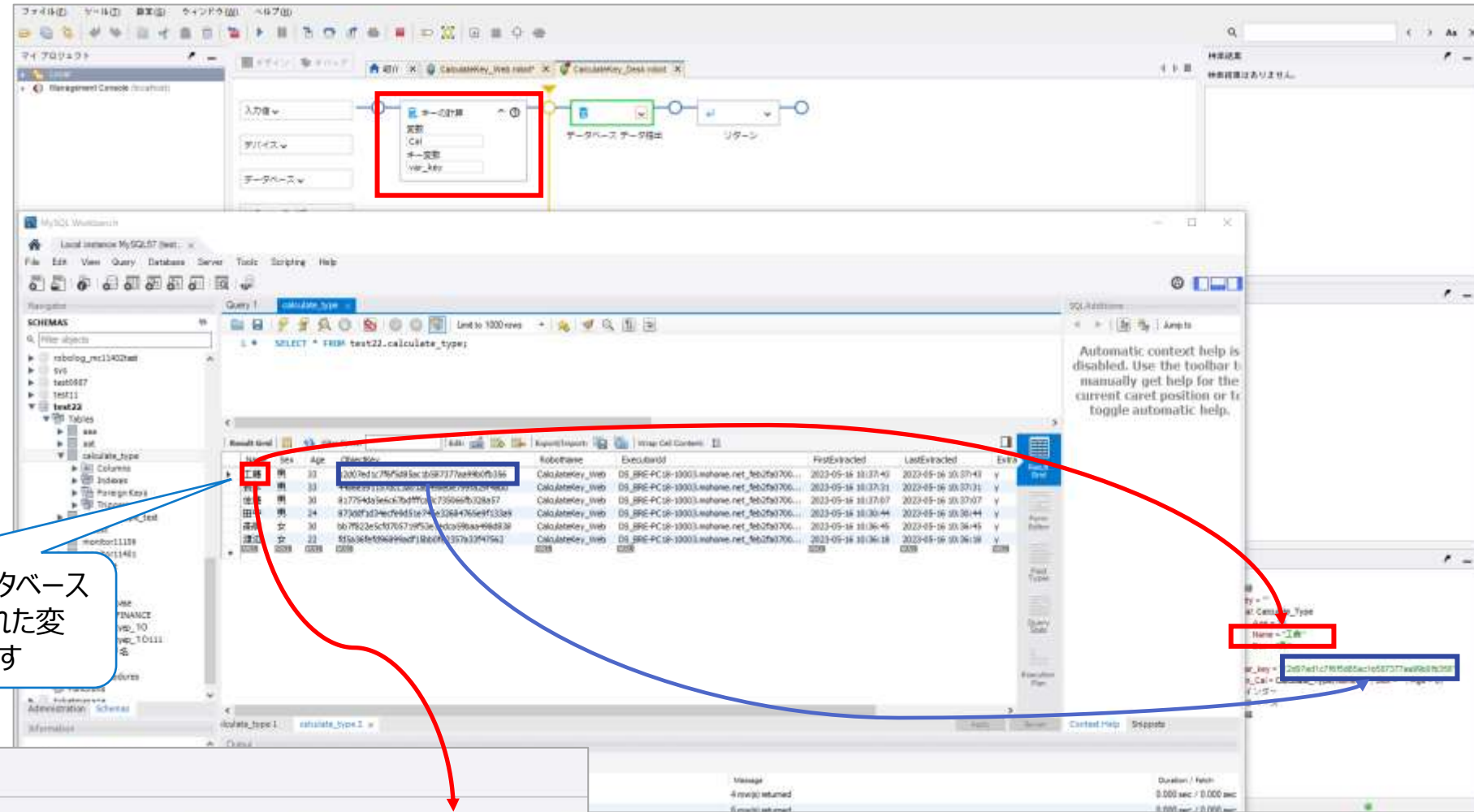
4-1. 「キーの計算」ステップ

• DAロボットでもベーシックエンジンロボットと同じように、指定された変数値のキーを計算できます。

• キーを計算し、他のデータベースステップに利用します。

例：

- 「データベースデータ抽出」
- 「データベースデータ削除」



タイプ変数を使って、「データベースキーの一部」として定義された変数の値で、キーを抽出します

属性:	名前	ストレージ名	属性の種類	レコードフィールドタ...	デフォルト値	保存可能	必須	データベースキーの一部
	Name		Short Text	Text		✓		✓
	Sex		Short Text	Text		✓		
	Age		Integer	Integer		✓		

4-2. データベースの値の抽出と削除

・DAロボットでもベーシックエンジンロボットと同じように、データベースから値の抽出、及び削除ができます。

・当該ステップを使う場合は、以下のいずれかのキーを使います。

①計算されたキー

「キーの計算ステップ」より算出されたキー値を設定

②タイプ内に定義されたキー

タイプで「データベースキーの一部」としてチェックされた変数に抽出（削除）したい値を設定

※詳しい使い方はDSステップと同等のためBizRobo!ナレッジをご参照ください。

[「データベース データ抽出\(Find in Database\)」ステップ](#)

※監査データの使用に関しては、以下のURLで参照できます。

https://docshield.kofax.com/RPA/ja_JA/11.4.0-vcsft2fhaw/help/rpa_help/help_main/designstudio/c_storingdataindatabases.html#kap_c_storingdataindatabases

①の例

事前取得したキーを利用して値を抽出します

事前取得したキーを利用して削除します

Name	Sex	Age	ObjectKey	RobotName	ExecutionId	FirstExtracted	LastExtracted
工藤	男	33	4486e9911578cc3ed01ab4988be799fa29f4860	CalcAnteKey_VWeb	OS_BRSE-PC-38-10001.mshome.net_feb2560706...	2023-05-18 11:25:21	2023-05-18
長本	男	33	817754da1e6c67a7ffba3c7350668f128a07	CalcAnteKey_VWeb	OS_BRSE-PC-38-10001.mshome.net_feb2560706...	2023-05-18 16:37:31	2023-05-18
辻橋	男	30	8770dfad19e67e9d51e746132684765a9f113a9	CalcAnteKey_VWeb	OS_BRSE-PC-38-10001.mshome.net_feb2560706...	2023-05-18 16:37:07	2023-05-18
田中	男	24	6b79e22e1c51705719f52e1edca59aa499d808	CalcAnteKey_VWeb	OS_BRSE-PC-38-10001.mshome.net_feb2560706...	2023-05-18 16:30:44	2023-05-18
宮崎	女	30	8f5a3e8e96899ac19ab6fe2187a33f47962	CalcAnteKey_VWeb	OS_BRSE-PC-38-10001.mshome.net_feb2560706...	2023-05-18 16:36:45	2023-05-18
渡辺	女	22		CalcAnteKey_VWeb	OS_BRSE-PC-38-10001.mshome.net_feb2560706...	2023-05-18 16:36:18	2023-05-18

タイプの各属性に対応する列

監査データ

4-3. DAロボットでのストアードプロシージャ呼び出し

• DAロボットの既存ステップ「データベース照会」と「SQL実行」は、ストアードプロシージャを呼び出すときに、パラメータの位置指定がステップ内できるようになりました。

プロシージャをコールします

```
call add_record2(?,?,?,?)
```

結果 = "call add_record2(?,?,?,?)"

ボタン (もしくは Ctrl-e) を押してモードを変更します。

v11.3

SQL実行
データベース マッピング
DB
SQL ステートメント
call add_recor...
 変更された行

SQL ステートメント
call add_recor...

```
DELIMITER $$  
2 * CREATE DEFINER='root'@'localhost' PROCEDURE 'add_record2' (IN param1 VARCHAR(255), IN param2 VARCHAR(255), IN param3 BINARY(20), OUT  
3 RESULT  
4 INSERT INTO calculate_type_test(Name, Sex, Age) VALUES(param1, param2, param3);  
5 SET result = ROW_COUNT();  
6 END$$  
7 DELIMITER ;
```

プロシージャをコールするためのパラメータ (入力値、出力値)

ストアードプロシージャ

5. Desktop Automationブラウザのアップグレード

v11.4でChromium Embedded Framework(CEF)のバージョンが、102.0.5005.115にアップグレードされました。

※バージョンの確認方法

DAロボットの「参照」ステップにて以下の内容を設定し「ステップオーバー」を押下。レコーダビューに表示されたChromium欄にて確認。

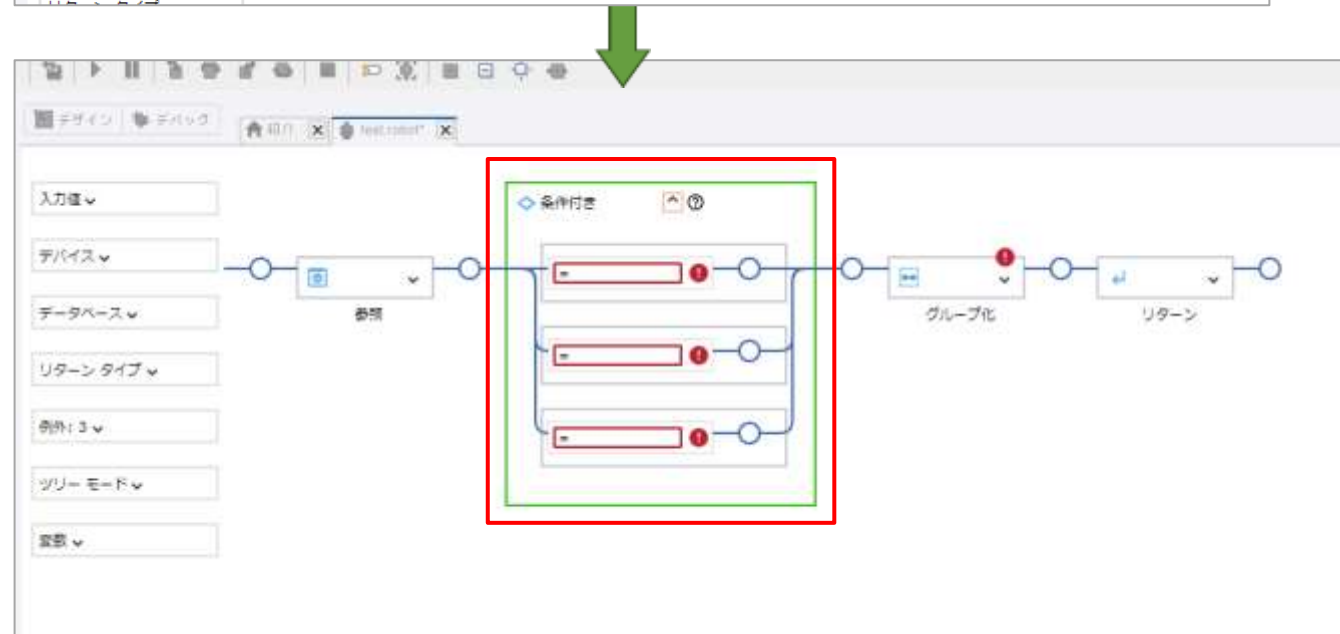
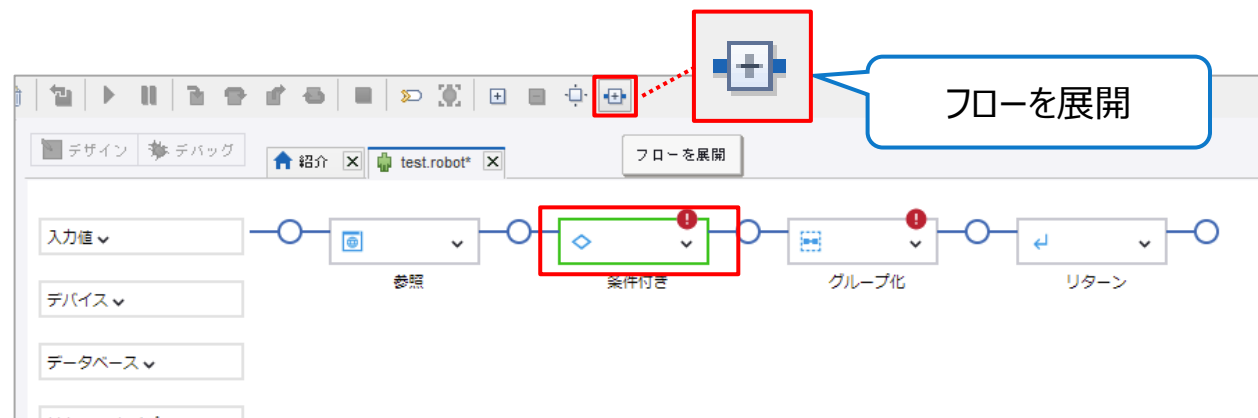
レコーダビュー

```
CEF: 102.31.9+gd25f249+chromium-102.0.5005.115
Chromium: 102.0.5005.115
OS: Windows
WebKit: 537.36 (@174dbe6e33bc81994fceb71d751be201d0b4803d)
JavaScript: 10.2.154.8
User Agent: Mozilla/5.0 (Windows NT 10.0; Win64; x64) AppleWebKit/537.36 (KHTML, like Gecko) Chrome/102.0.5005.115 Safari/537.36
Command Line: "C:\Program Files\BizRobo Basic 11.4.0.2\nativelib\hub\windows-x64\2535\bin\node.exe" -e /conf: {"locale":"en","localhub":true,"easydasuploadtimeout":45} -- browser-subprocess-path="C:\Program Files\BizRobo Basic 11.4.0.2\nativelib\hub\windows-x64\2535\node_modules\cef\renderer.exe" --no-sandbox -- lang=en-US --log-file="C:\Program Files\BizRobo Basic 11.4.0.2\nativelib\hub\windows-x64\2535\bin\debug.log" -- resources-dir-path="C:\Program Files\BizRobo Basic 11.4.0.2\nativelib\hub\windows-x64\2535\node_modules\cef" --
```

6. 「フローを展開」アイコン(1/2)

DAロボットのツールバーに新しいアイコンが追加されました。
新しいアイコンを使用して、以下の操作が可能です。

- 選択したステップのフローを展開します。



6. 「フローを展開」アイコン(2/2)

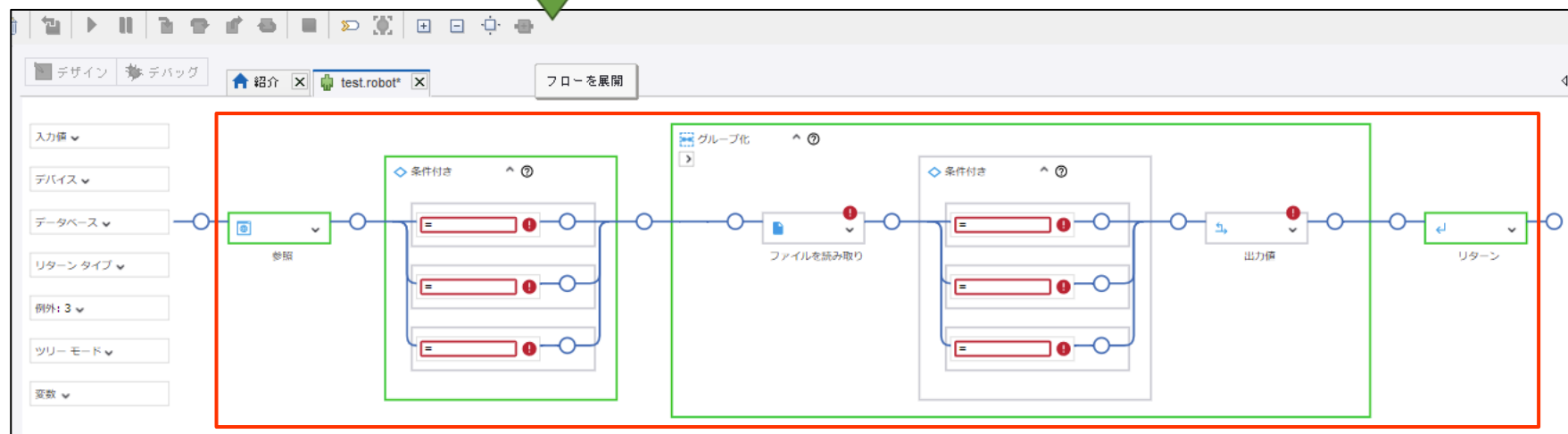
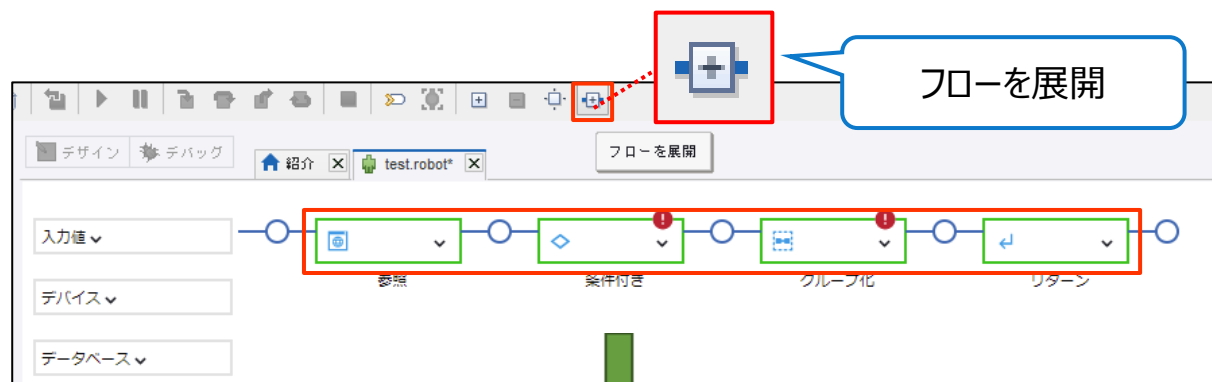
DAロボットのツールバーに新しいアイコンが追加されました。
新しいアイコンを使用して、以下の操作が可能です。

・グループ、ループ、条件付きステップなどの、フローライン※を含むすべての選択済みステップを展開します。

※中に他のステップを持つことが出来るステップのことを指します。

例

- ・グループステップ
- ・ループステップ
- ・ガードチョイスステップ内部に他のステップを持つもの

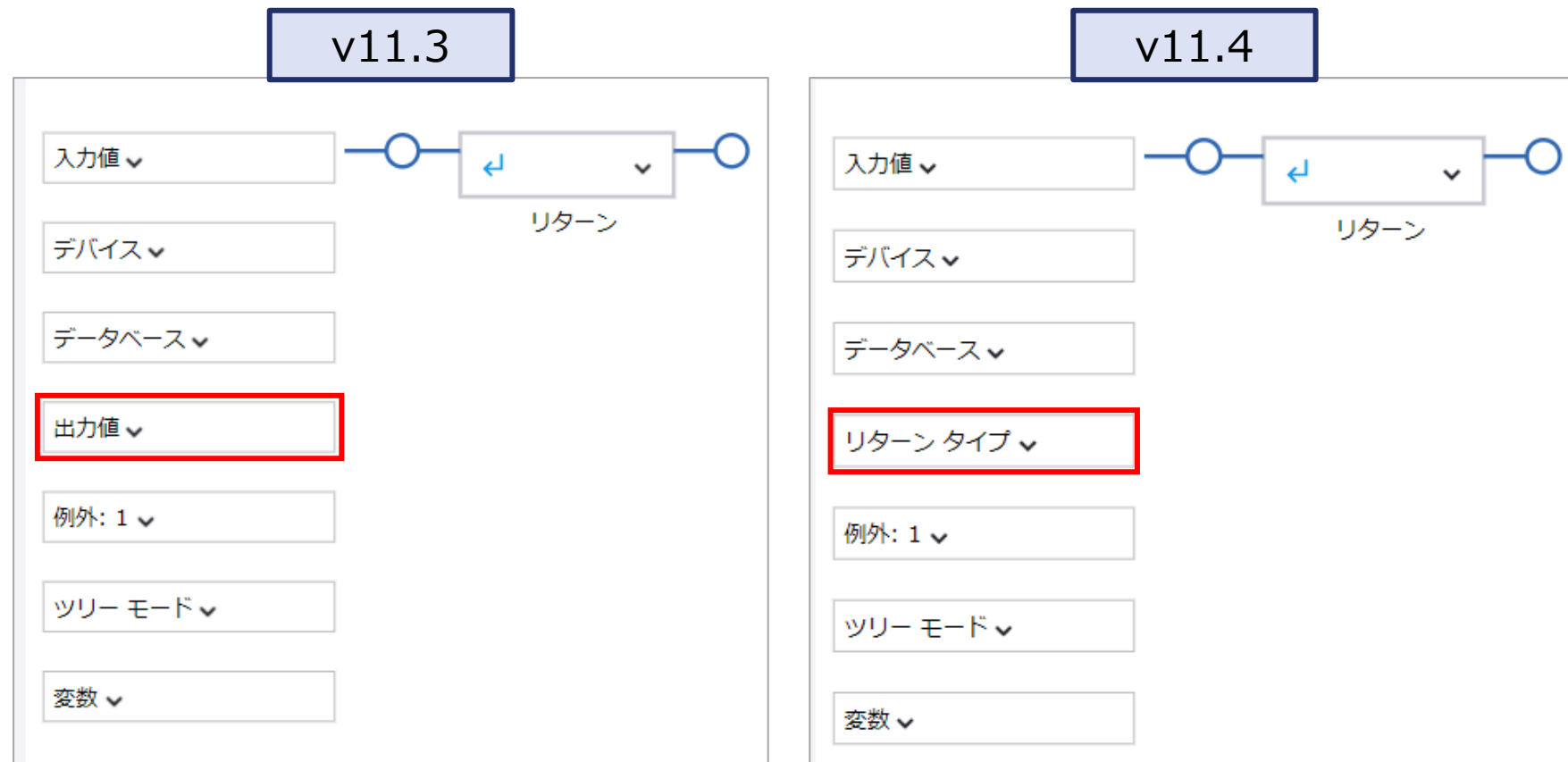


※フローラインが含まれないステップ（参照や割り当て）は展開されません。

7. 「出力値」の名前の変更

DAロボットのロボットビューにおいて、「属性」ペインの「出力値」の名称が「リターンタイプ」に変更されました。

- 出力値 → リターンタイプ



8. Internet Explorerの廃止

MicrosoftはInternet Explorerのサポートを終了しました。

Finder Updater Toolを使用して、ロボットをInternet ExplorerからMicrosoft Edgeに移行してください。このツールはインストールパッケージに含まれています。

Microsoft EdgeにはIEモードがありますので、このモードで既存のアプリの自動化が可能となります。開発したコンポーネントはそのまま利用し、アプリケーション名をFinder Updater Tool※で更新することができます。

※詳細は「その他> 1. Finder Updater Tool」をご参照ください。

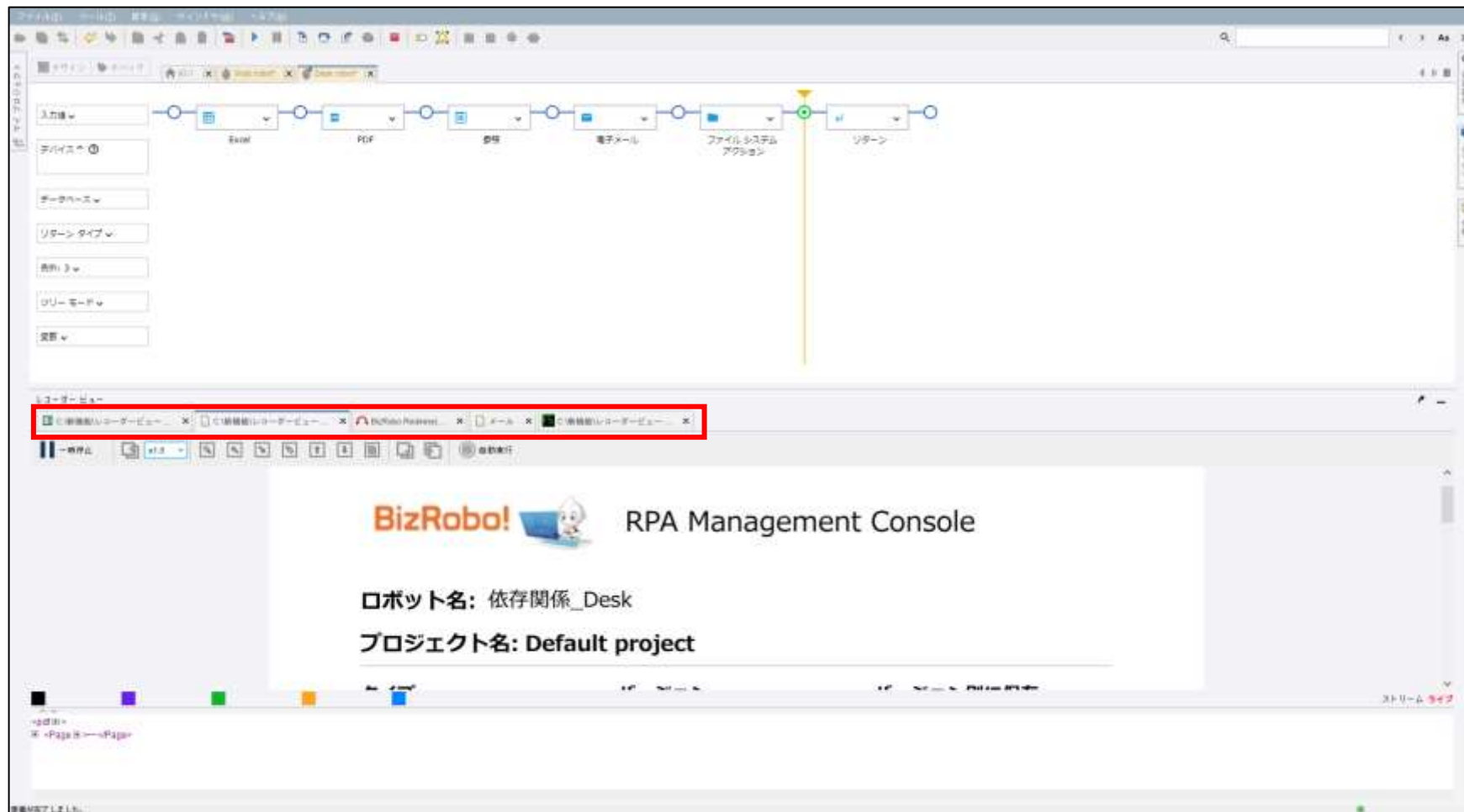


起動中の
「Finder Updater Tool」

9. レコーダービュータブを閉じる

レコーダービュータブの右上にアプリケーションを閉じる「x」オプションが追加されました。タブを手動で簡単に閉じることができるようになりました。

モード	「x」オプション有無
Chromium	有
PDF	有
Excel	有
電子メール	有
ファイルシステム	有
DASモード	無



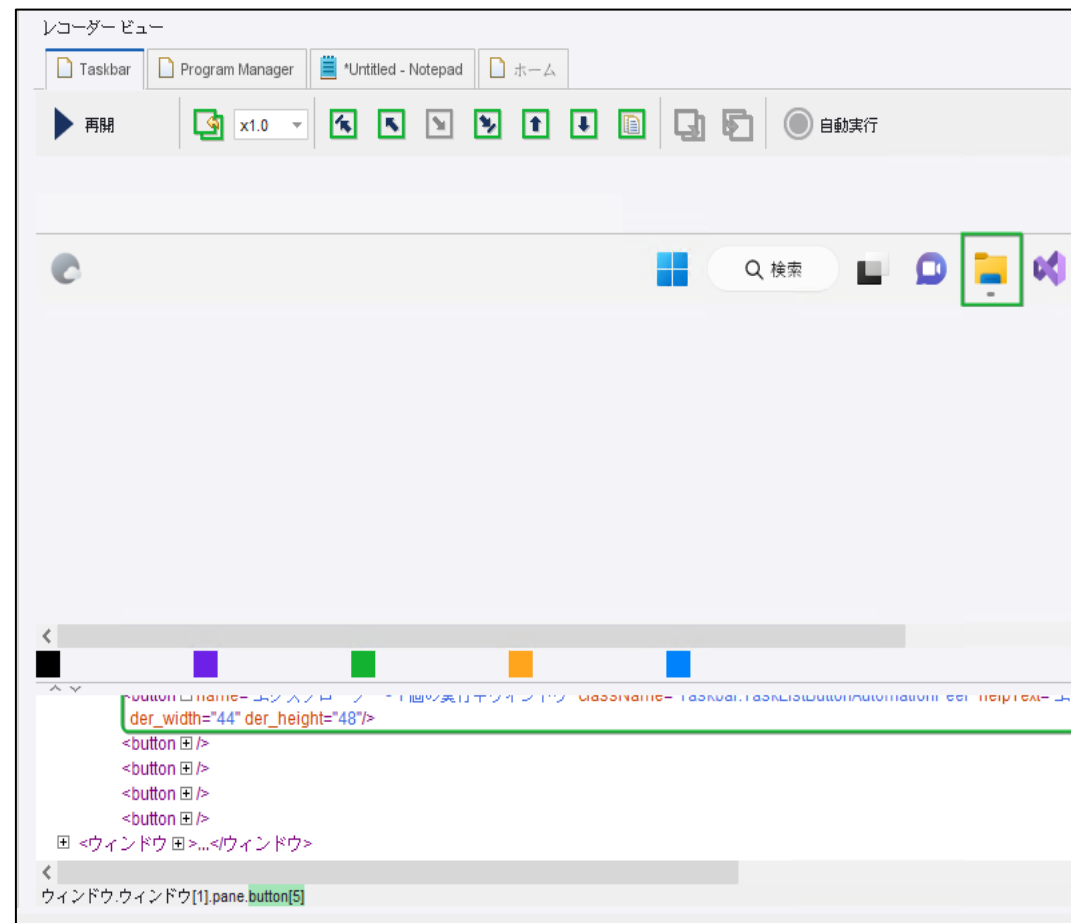
10. DASのWindows11対応

v11.4以降のDASは対応OSにWindows11が追加されました。

Windows11では標準UI(タスクバー、ウィンドウメニュー、エクスプローラー、メモ帳、コマンドプロンプト...等)の様々な要素が変更されました。

標準UIを自動化している場合、ロボットの修正が必要になるばあい可能性があります。

※ Windows10で開発したDAS利用ロボットをWindows11に移行する際は、[BizRobo!ナレッジ](#)「Windows10のDAS利用ロボットからWindows11へ移行する時の注意点」をご参照ください。
「その他」> 1. Finder Updater Tool」にもツールを使った修正方法を掲載しています。



Kapplets

1. Kapplets失敗オプション
2. テンプレート作成の際の追加設定
3. 入力変数としてのOAuthクレデンシャルの廃止

1. Kapplets失敗オプション

スケジュール済みのKappletsの実行が失敗した場合、次の新しいオプションを使用できます。

- ・失敗した場合は一時停止
- ・タイムアウトした場合は一時停止
- ・エラーで終了した場合は一時停止

※停止オプションは削除されました。

旧Verから移行した場合、該当オプションのないもの（停止、クラシック Kapplets）には「なし」が設定されます。

新しいスケジュールを作成

新しいスケジュールに関する情報を追加

スケジュール中・
毎時

スケジュールされた最初の日・ 5/29/2023
開始日時・ 08:17

スケジュールされた最後の日

期間・
1 hr

実行に失敗した場合・
クリックしてポリシーを追加...

なし

失敗した場合は一時停止

タイムアウトした場合は一時停止

エラーで終了した場合は一時停止

2. テンプレート作成の際の追加設定

Kapletsのテンプレートを作成する時に「タイムアウト値/時間単位」「優先度」が設定できるようになりました。

旧Verから移行した場合、デフォルト値が設定されます。

The screenshot shows the 'Kaplet' management interface. On the left is a dark sidebar with navigation items: Kaplet, テンプレート (highlighted), スケジュール, 履歴, ユーザー, ユーザーグループ, ワークスペース, and 管理. The main content area is titled '新しいテンプレートに関する一般的な情報を追加します。' and contains several form fields. A red box highlights the 'タイムアウト値' (Timeout value) field set to '600' and the '時間単位' (Time unit) dropdown menu set to '秒' (Seconds). Below this, the '優先度' (Priority) dropdown menu is set to '中' (Medium). Other fields include '名前' (Name), 'ワークスペース' (Workspace), and '説明' (Description). At the bottom, there is an 'アイコン' (Icon) section with three icons: a blue robot, a red circle with a white minus sign, and a yellow circle with a white plus sign.

3. 入力変数としてのOAuthクレデンシャルの廃止

Kappletsの明示的な入力変数としてユーザが任意の「OAuth クレデンシャル」を入力することは、v11.4よりサポートされなくなりました。

v11.4以降の場合、Management Console(MC)にて「OAuth クレデンシャル」を入力します。

MCで作成したOAuthクレデンシャルは、Kappletsを構成するときにリストから選択できます。

※明示的な入力変数をOAuthクレデンシャルとして使用するKappletsがある場合は、MCで設定したOAuthクレデンシャルを使用するようにKappletの設定を変更する必要があります。

具体的な操作方法および過去バージョンとの比較につきましては、[BizRobo!ナレッジ](#)「入力変数としてのOAuthクレデンシャルの廃止」をご確認ください。



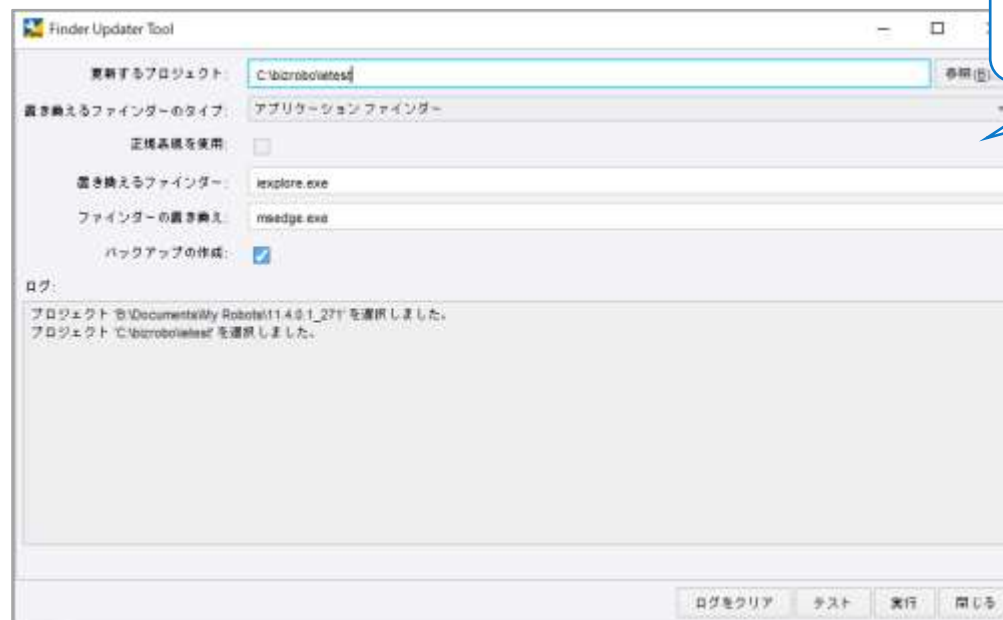
その他

1. Finder Updater Tool
 - 1-1. Internet Explorer から Microsoft Edge に移行
 - 1-2. DAロボットのWindows11対応
2. シンクロナイザーOAuthコマンド
3. フィックスパックでの同じスケジューラデータベースの使用

1-1. Internet Explorer から Microsoft Edge に移行(1/6)

Finder Updater Toolを使用して、プロジェクト内のすべてのロボットを対象として、ファインダーの文字列を置換することができます。

このツールを使用して、ロボットをInternet ExplorerからMicrosoft Edgeに移行できます。

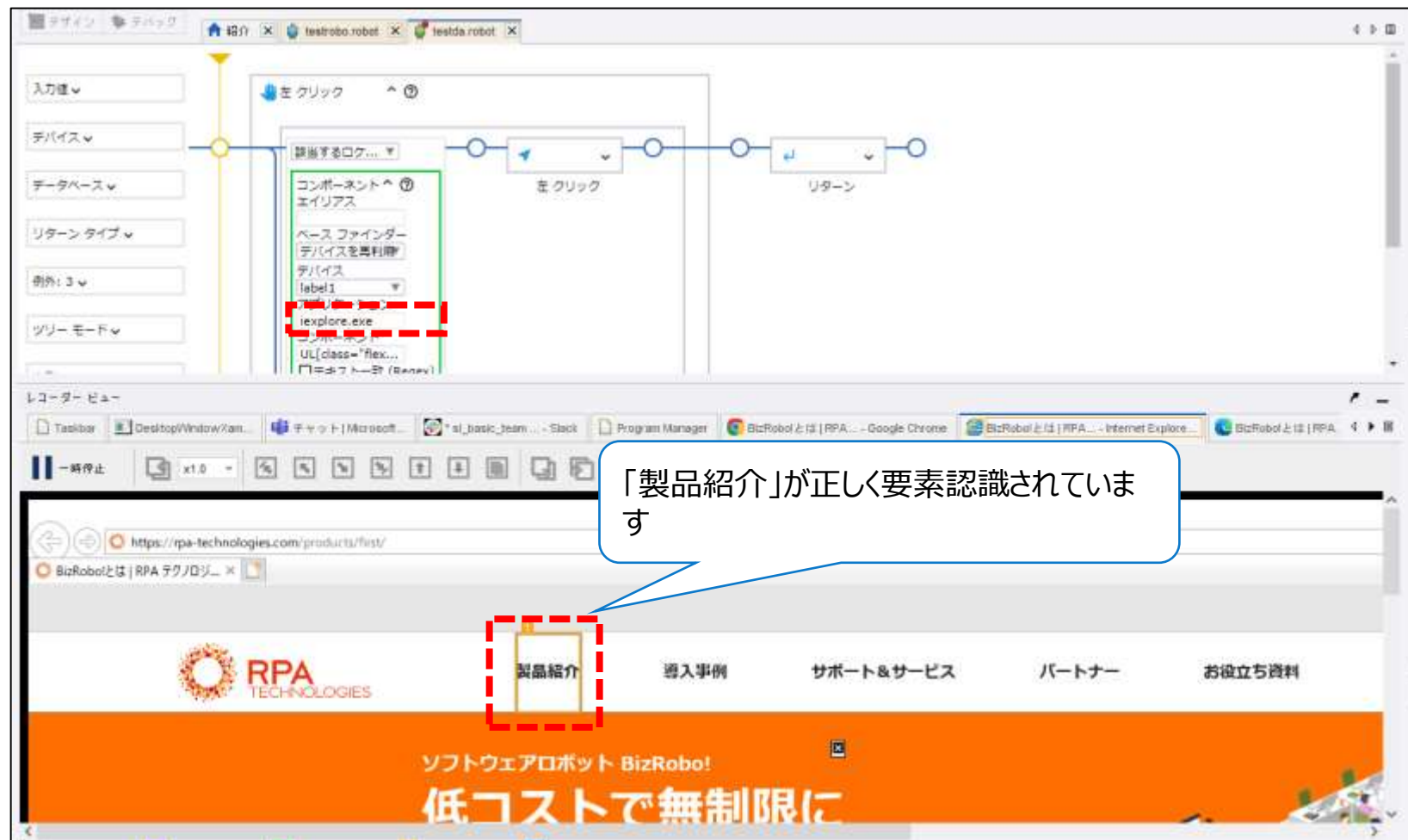


起動中の
「Finder Updater Tool」

1-1. Internet Explorer から Microsoft Edge に移行(2/6)

IEを操作する簡単なDAロボットを例に説明します。

①DAロボットが「製品紹介」のリンクを左クリックするよう要素認識されています。

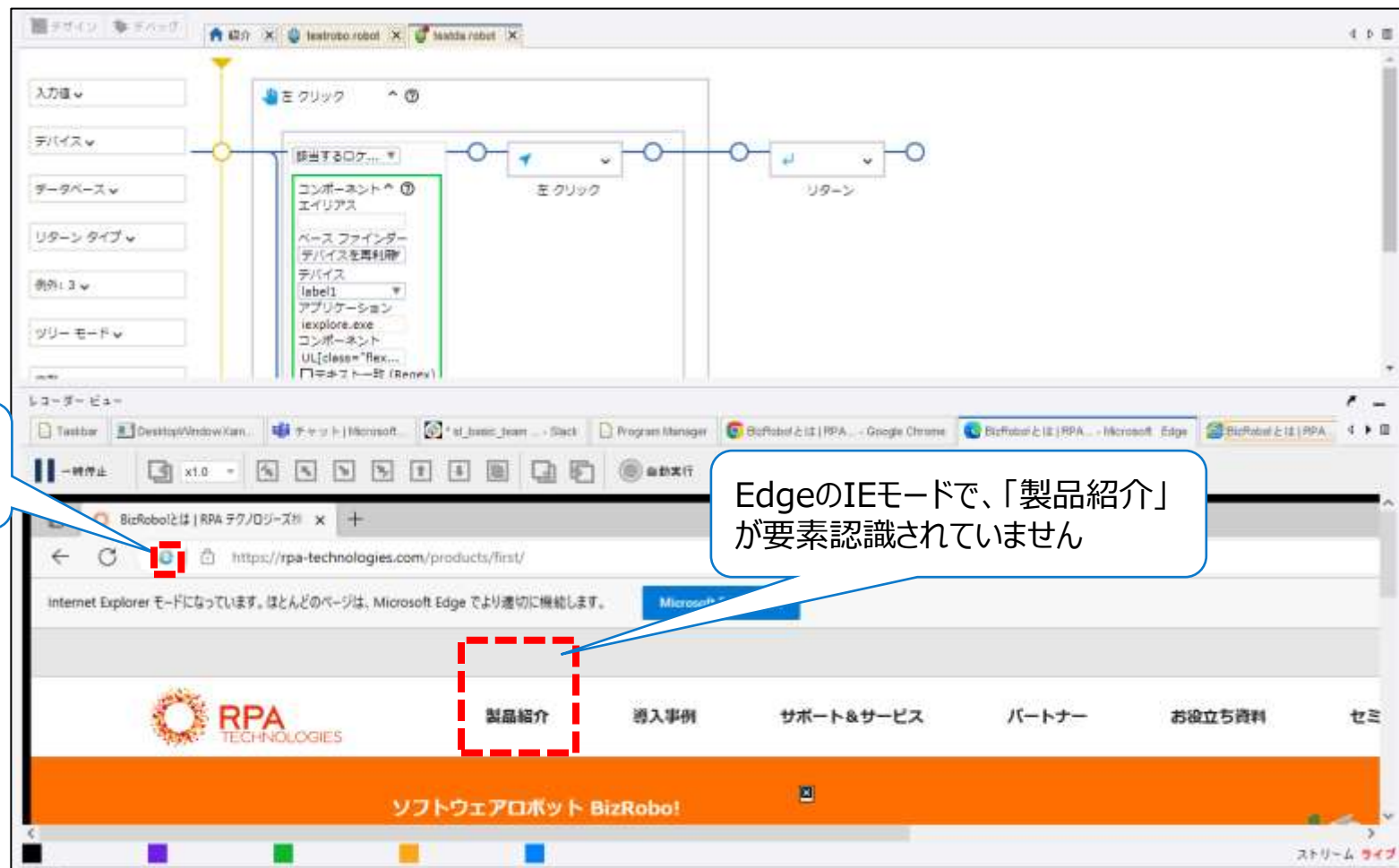


1-1. Internet Explorer から Microsoft Edge に移行(3/6)

②同じロボットでEdgeのIEモードで同じページを操作すると、「製品紹介」が要素認識されません。

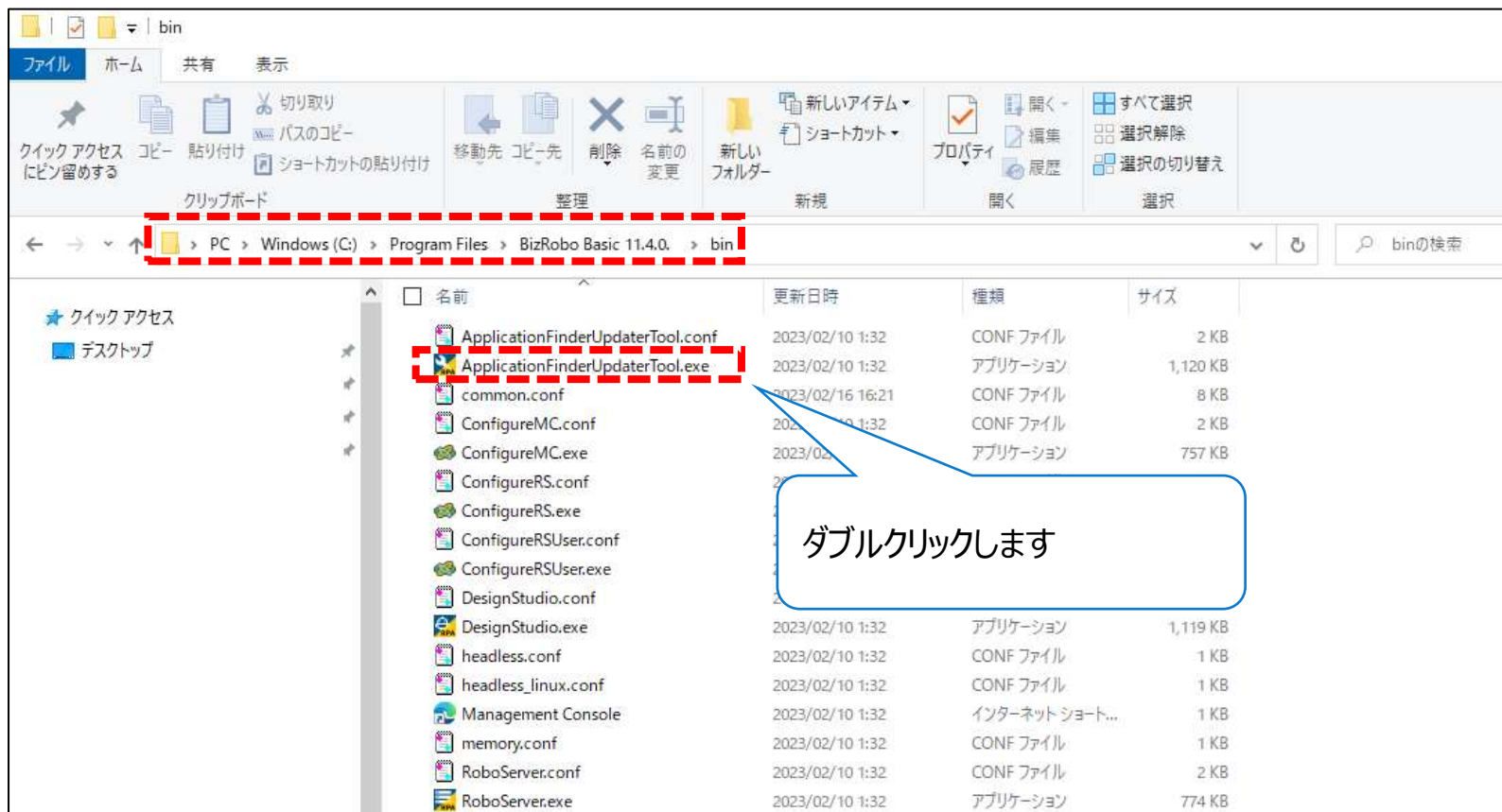
EdgeのIEモードがON

EdgeのIEモードで、「製品紹介」が要素認識されていません



1-1. Internet Explorer から Microsoft Edge に移行(4/6)

③「ApplicationFinderUpdaterTool.exe」を実行して、Finder Updater Toolを起動します。



1-1. Internet Explorer から Microsoft Edge に移行(5/6)

④更新するロボットのプロジェクトを指定し、「置き換えるファインダーのタイプ」に「アプリケーションファインダー」を選択し、置き換え文字列を設定します。

今回は「iexplore.exe」を「msedge.exe」へ置き換えます。

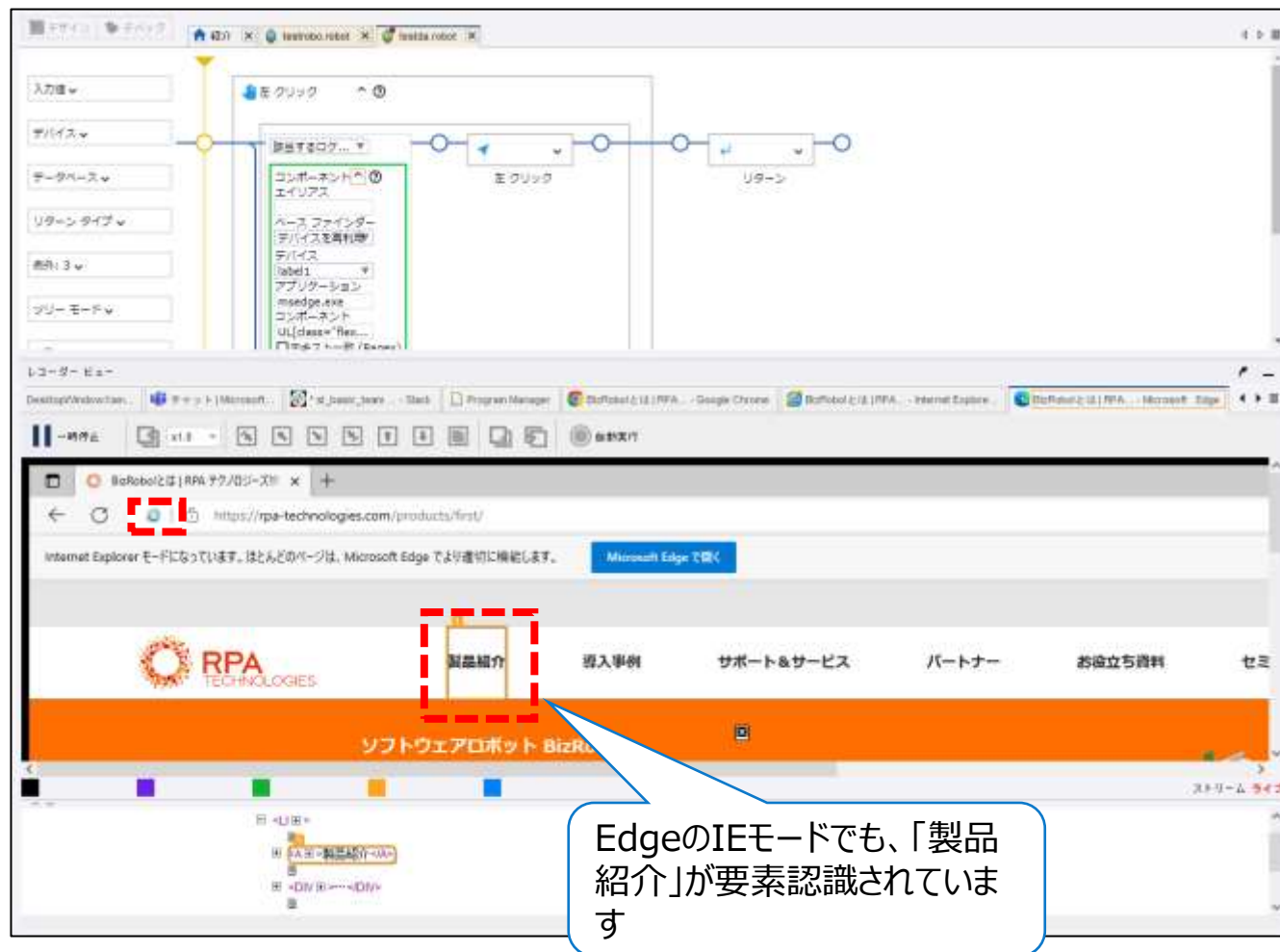
最後に「実行」ボタンをクリックします。



1-1. Internet Explorer から Microsoft Edge に移行(6/6)

⑤再度ロボットを開きます。
EdgeのIEモードでも、「製品紹介」が要素認識されています。

※処理内容によってはロボットの修正が必要になる場合があります。



1-2. DAロボットのWindows11対応(1/4)

DAロボットをWindows11用に修正する場合を例に説明します。

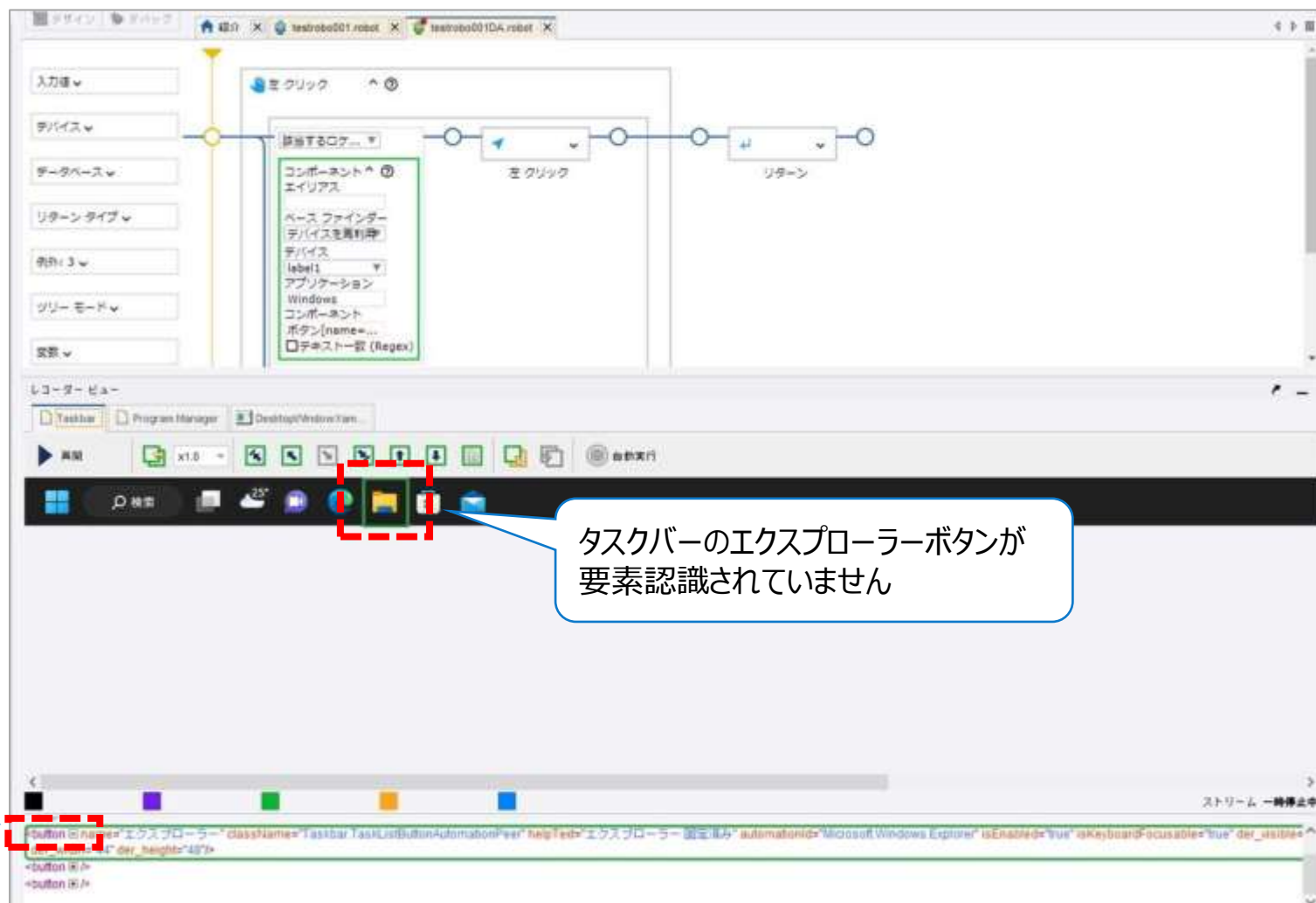
① Windows10でタスクバーのexplorerボタンをクリックするロボットです。
explorerボタンのコンポーネントツリーに「ボタン」として解釈されています。

タスクバーのexplorerボタンが正しく要素認識されています

explorerボタンのコンポーネントツリーに「ボタン」として解釈されています

1-2. DAロボットのWindows11対応(2/4)

②DASの環境をWindows11に移行すると、エクスプローラーボタンのコンポーネントツリーに「button」として解釈されます。そのため、エクスプローラーボタンが正しく認識されなくなります。

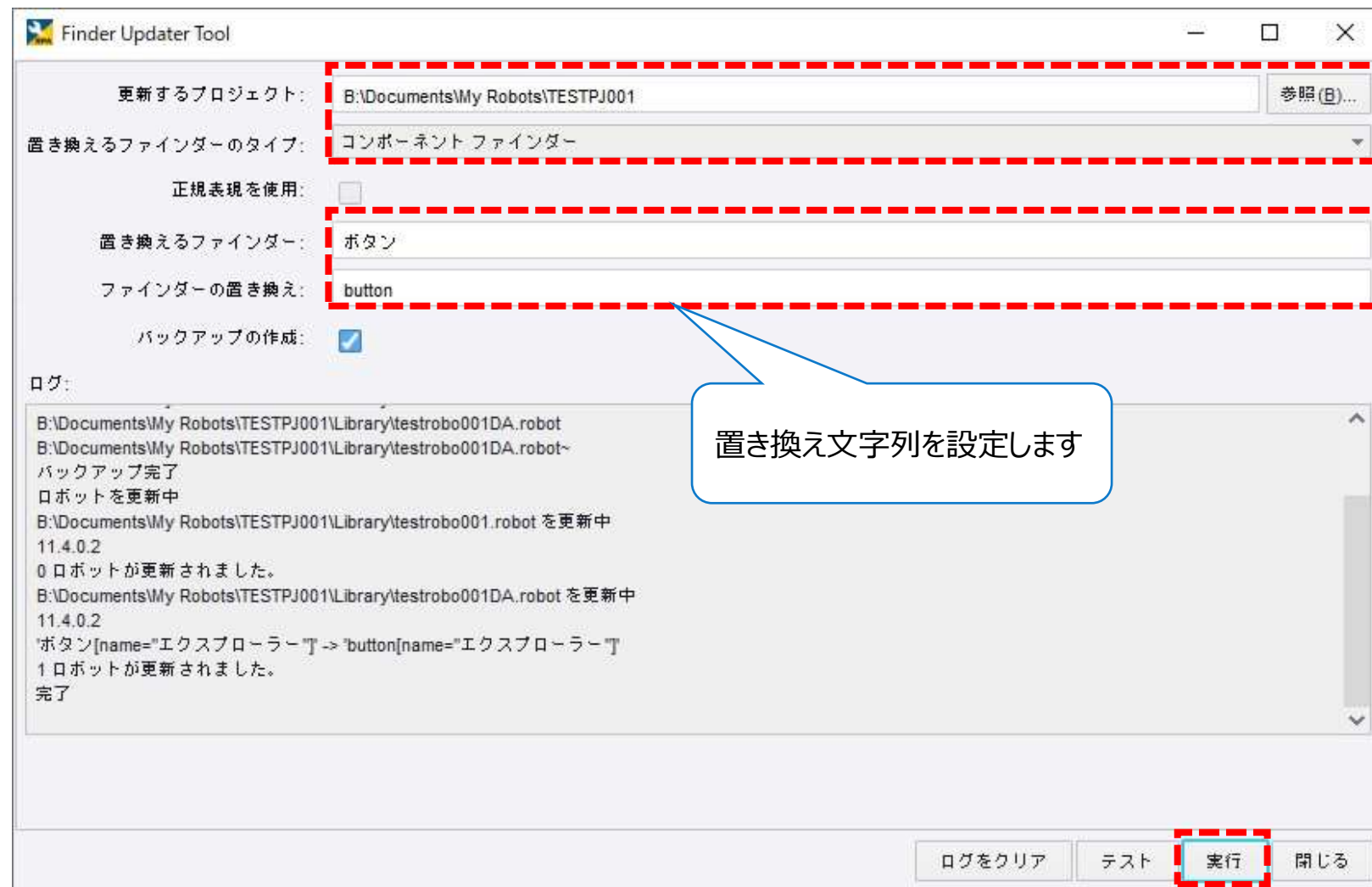


1-2. DAロボットのWindows11対応(3/4)

③更新するロボットのプロジェクトを指定し、「置き換えるファインダーのタイプ」を「コンポーネントファインダー」を選択し、置き換え文字列を設定します。

今回は「ボタン」を「button」へ置き換えます。

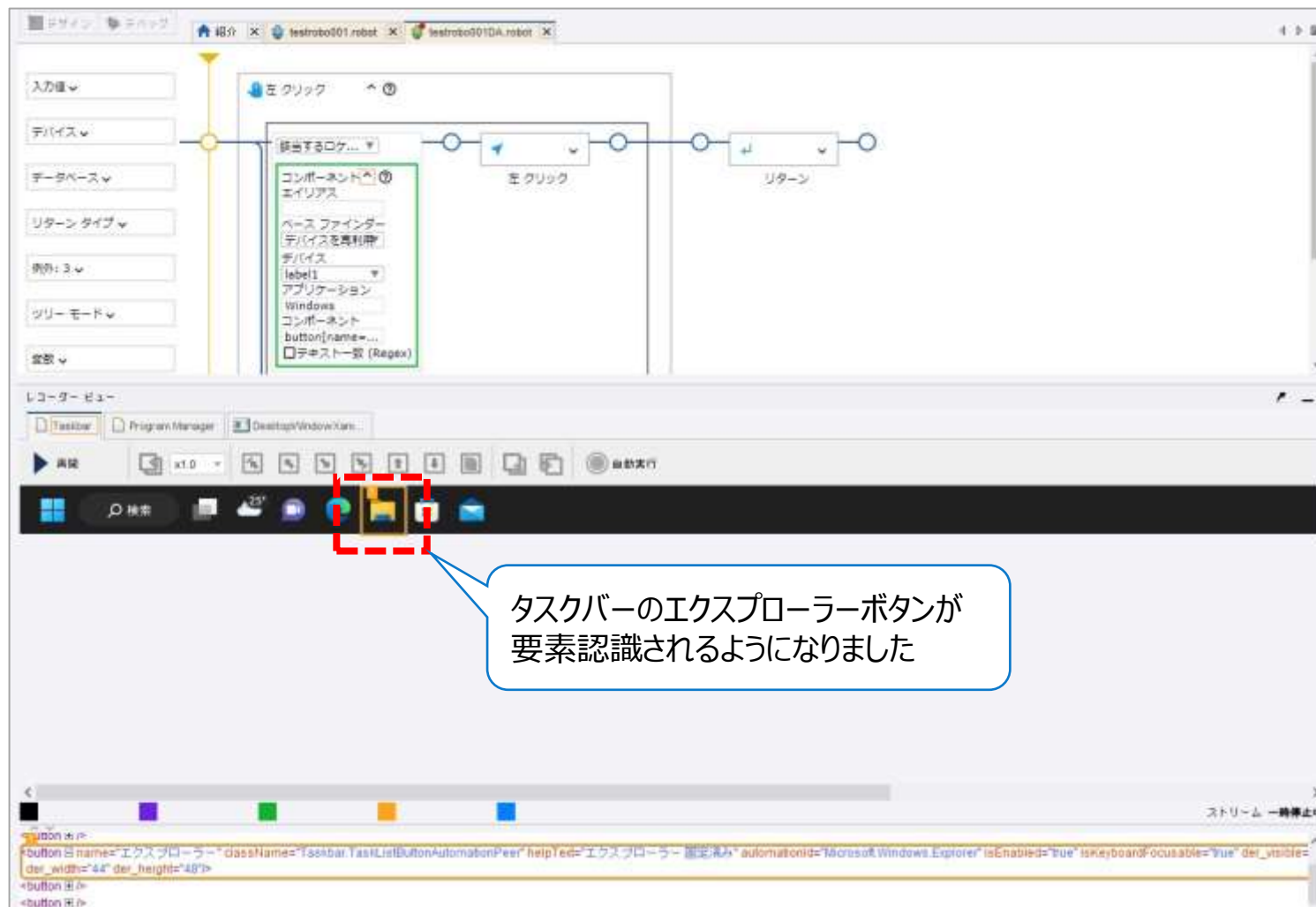
最後に「実行」ボタンをクリックします。



1-2. DAロボットのWindows11対応(4/4)

④再度ロボットを開きます。
エクスプローラーボタンが認識できるようになります。

※処理内容によってはその他の補正が必要になる場合があります。



2. シンクロナイザーOAuthコマンド(1/6)

・シンクロナイザーにて、OAuthのトークンベースの認証をサポートしました。

下記2つのオプションが追加され、使用できます。

- oauth-client-secret
- oauth-client-secret-file

・シンクロナイザーにてMC認証が廃止されました。

- username
- password

v11.4

```

C:\Program Files\Wondershare Basic 11.4.0\bin>Synchronizer.exe -h
Usage: Synchronizer [-h] [-e] [-g] [-i] [-m] [-n] [-o] [-p] [-r] [-s] [-v]
  -h, --help                Print this help and exit.
  -e, --environment        Take settings from environment, disregard the settings file.
  -g, --generate-ssh-keys [arg] Generate key-pair for ssh authentication.
  -i, --interval [arg]     The interval (in seconds) between each synchronization attempt (only in conjunction with the -c option).
  -m, --mc-url [arg]       The URL for the Management Console (only in conjunction with the -c option).
  -n, --no-host-key-checking Disable strict SSH host-key checking (only in conjunction with the -c option).
  -o, --oauth-client-secret [arg] The Synchronizer OAuth client secret for Management Console (only in conjunction with the -c option).
  -o, --oauth-client-secret-file [arg] The Synchronizer OAuth client secret file for Management Console (only in conjunction with the -c option).
  -p, --private-key [arg]   Path to private SSH key to use with SSH (only in conjunction with the -c option).
  -r, --reset-hard         Reset all version information and remove all local cache.
  -s, --save               Store settings into the settings file and exit.
  -v, --version            Print version information and exit.
  -- Arapser Stopped
  
```

旧バージョン

```

C:\Program Files\Wondershare RPA 11.3.0.3\bin>Synchronizer.exe -h
Usage: Synchronizer [-h] [-e] [-g] [-i] [-m] [-n] [-o] [-p] [-r] [-s] [-v]
  -h, --help                Print this help and exit.
  -e, --environment        Take settings from environment, disregard the settings file.
  -g, --generate-ssh-keys [arg] Generate key-pair for ssh authentication.
  -i, --interval [arg]     The interval (in seconds) between each synchronization attempt (only in conjunction with the -c option).
  -m, --mc-url [arg]       The URL for the Management Console (only in conjunction with the -c option).
  -n, --no-host-key-checking Disable strict SSH host-key checking (only in conjunction with the -c option).
  -o, --password [arg]     The password for Management Console (only in conjunction with the -c option).
  -o, --private-key [arg]   Path to private SSH key to use with SSH (only in conjunction with the -c option).
  -r, --reset-hard         Reset all version information and remove all local cache.
  -s, --save               Store settings into the settings file and exit.
  -u, --username [arg]     The username for Management Console (only in conjunction with the -c option).
  -v, --version            Print version information and exit.
  -- Arapser Stopped
  
```

2. シンクロナイザーOAuthコマンド(2/6)

認証設定を行う前に、まずはMCのOAuthクライアントシークレットを取得します。

最初にMC>管理>OAuthサーバー>シンクロナイザーの「シンクロナイザーOAuth設定」の値をクリップボードにコピーします。

The screenshot shows the BizRobot! RPA Management Console interface. The top navigation bar includes 'BizRobot!', 'RPA Management Console', and '管理 > OAuthサーバー'. The left sidebar contains a menu with items like 'スケジュール', 'リポジトリ', 'データビュー', 'ログビュー', '管理', 'タスクビュー', 'RoboServer', 'プロジェクト', '高可用性ノード', 'デバイス', 'ユーザーおよびグループ', and 'OAuthサーバー' (highlighted with a red dashed box). The main content area shows the 'シンクロナイザー OAuth 設定' page. The 'クライアントシークレット' field contains the value '9MshF7R0Rm74Q6T4ebY0_jfjv1aCyhpHd5dJhgmbuQ2_xZcnbdxDs45m1g0DMMPK0ISYfTR2-M17wmWCJxwQ' and is highlighted with a red dashed box. A 'クリップボードにコピー' button is located to the right of the field. Below the field is a red button labeled 'トークンを取り消す'.

2. シンクロナイザーOAuthコマンド(3/6)

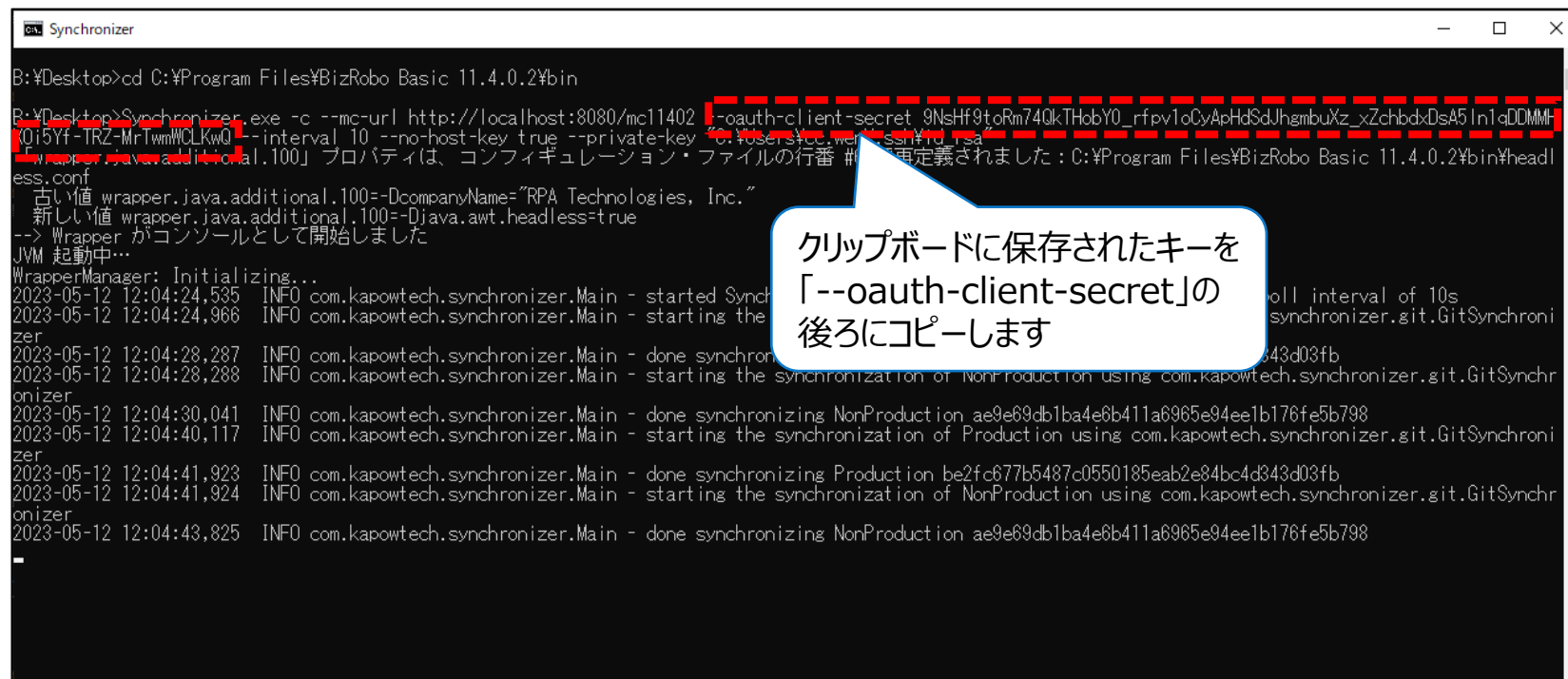
シンクロナイザーの認証設定には2つの方法があります。

【認証方法 1】

クライアントシークレットを直接指定

`--oauth-client-secret`

DOSコマンドでSynchronizer.exeを起動し、シンクロナイザーをOAuth認証し、起動します。



```
B:\Desktop>cd C:\Program Files\BizRobo Basic 11.4.0.2\bin
B:\Desktop>Synchronizer.exe -c --mc-url http://localhost:8080/mc11402 --oauth-client-secret 9NsHf9toRm74QkTHobY0_rfpv1oCyApHdSdJhgmbuXz_xZchbdxDsA5ln1qDDMMHXO
i5Yf-TRZ-MrTwmWCLKwQ --interval 10 --no-host-key true --private-key "C:\Users\ycc\user\ssh\id_rsa"
[C:\Program Files\BizRobo Basic 11.4.0.2\bin\wrapper.jar] プロパティは、コンフィギュレーション・ファイルの行番 #1で再定義されました : C:\Program Files\BizRobo Basic 11.4.0.2\bin\headl
ess.conf
古い値 wrapper.java.additional.100=-DcompanyName="RPA Technologies, Inc."
新しい値 wrapper.java.additional.100=-Djava.awt.headless=true
--> Wrapper がコンソールとして開始しました
JVM 起動中...
WrapperManager: Initializing...
2023-05-12 12:04:24,535 INFO com.kapowtech.synchronizer.Main - started Synchronizer
2023-05-12 12:04:24,966 INFO com.kapowtech.synchronizer.Main - starting the synchronization of NonProduction using com.kapowtech.synchronizer.git.GitSynchroni
zer
2023-05-12 12:04:28,287 INFO com.kapowtech.synchronizer.Main - done synchronizing NonProduction ae9e89db1ba4e6b411a6965e94ee1b176fe5b798
2023-05-12 12:04:28,288 INFO com.kapowtech.synchronizer.Main - starting the synchronization of Production using com.kapowtech.synchronizer.git.GitSynchroni
zer
2023-05-12 12:04:30,041 INFO com.kapowtech.synchronizer.Main - done synchronizing Production be2fc877b5487c0550185eab2e84bc4d343d03fb
2023-05-12 12:04:40,117 INFO com.kapowtech.synchronizer.Main - starting the synchronization of NonProduction using com.kapowtech.synchronizer.git.GitSynchroni
zer
2023-05-12 12:04:41,923 INFO com.kapowtech.synchronizer.Main - done synchronizing NonProduction ae9e89db1ba4e6b411a6965e94ee1b176fe5b798
2023-05-12 12:04:41,924 INFO com.kapowtech.synchronizer.Main - starting the synchronization of Production using com.kapowtech.synchronizer.git.GitSynchroni
zer
2023-05-12 12:04:43,825 INFO com.kapowtech.synchronizer.Main - done synchronizing NonProduction ae9e89db1ba4e6b411a6965e94ee1b176fe5b798
```

クリップボードに保存されたキーを「--oauth-client-secret」の後ろにコピーします

コマンド例 :

```
cd C:\Program Files\BizRobo Basic 11.4.0.2\bin
```

```
Synchronizer.exe -c --mc-url http://localhost:8080/mc11402
```

```
--oauth-client-secret 9NsHf9toRm74QkTHobY0_rfpv1oCyApHdSdJhgmbuXz_xZchbdxDsA5ln1qDDMMHXO
```

```
--interval 10 --no-host-key true --private-key "C:\Users\username\ssh\id_rsa"
```

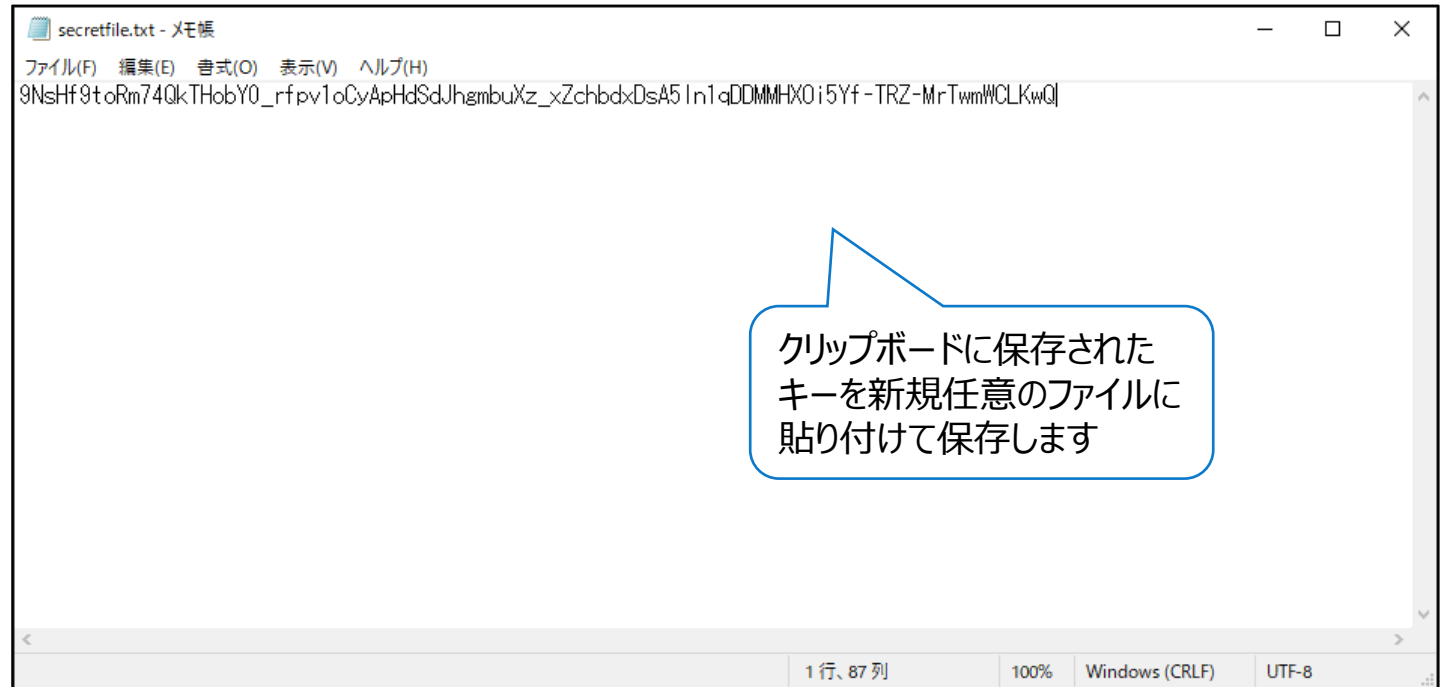
2. シンクロナイザーOAuthコマンド(4/6)

【認証方法2】

ファイルでシークレット指定

--oauth-client-secret-file

①シークレットファイルを編集し、保存します。

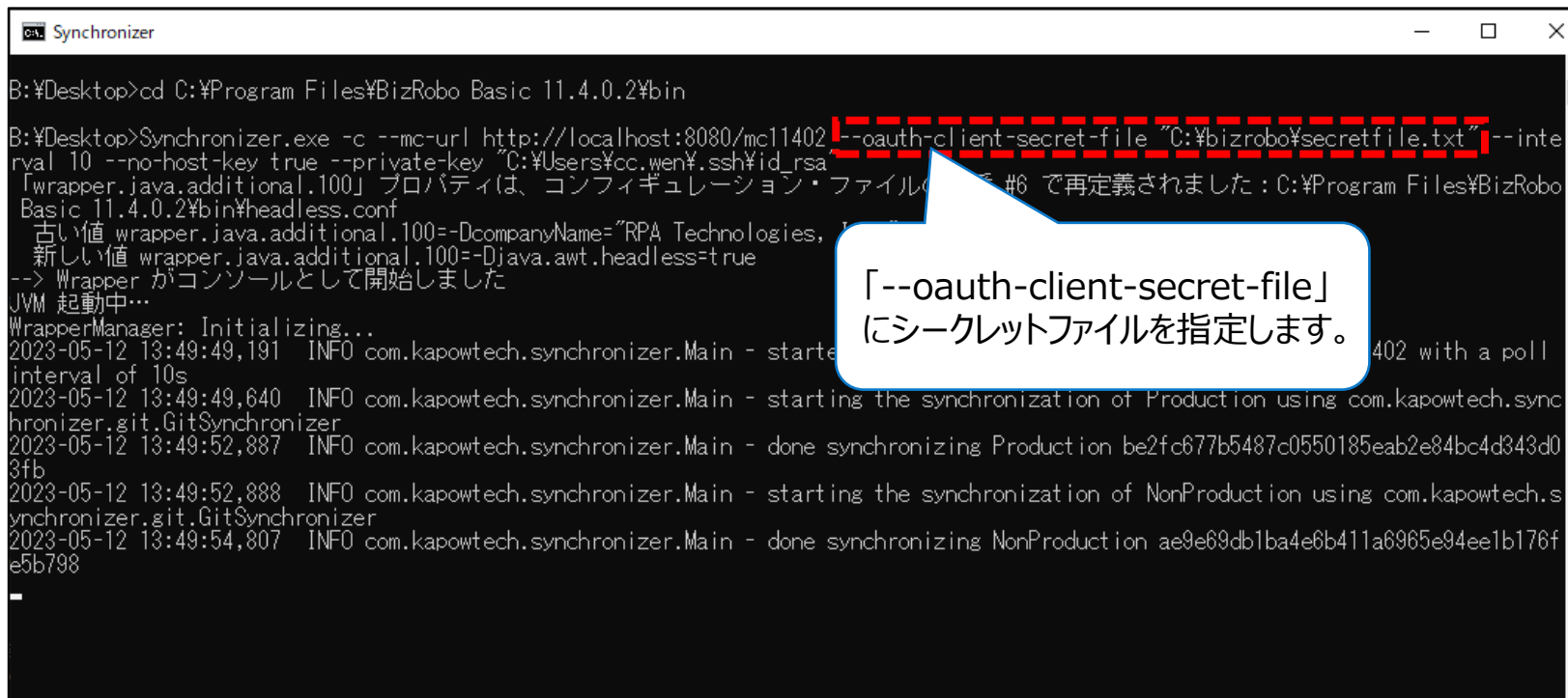


2. シンクロナイザーOAuthコマンド(5/6)

【認証方法2】ファイルでシークレット指定

--oauth-client-secret-file

②DOSコマンドでSynchronizer.exeを起動し、シンクロナイザーをOAuth認証し、起動します。



```
B:\Desktop>cd C:\Program Files\BizRobo Basic 11.4.0.2\bin
B:\Desktop>Synchronizer.exe -c --mc-url http://localhost:8080/mc11402 --oauth-client-secret-file "C:\bizrobo\secretfile.txt" --interval 10 --no-host-key true --private-key "C:\Users\cc.wen\.ssh\id_rsa"
「wrapper.java.additional.100」プロパティは、コンフィギュレーション・ファイル#6で再定義されました:C:\Program Files\BizRobo Basic 11.4.0.2\bin\headless.conf
古い値 wrapper.java.additional.100=-DcompanyName="RPA Technologies, Inc."
新しい値 wrapper.java.additional.100=-Djava.awt.headless=true
--> Wrapper がコンソールとして開始しました
JVM 起動中...
WrapperManager: Initializing...
2023-05-12 13:49:49,191 INFO com.kapowtech.synchronizer.Main - starting the synchronization of Production using com.kapowtech.synchronizer.git.GitSynchronizer
interval of 10s
2023-05-12 13:49:49,640 INFO com.kapowtech.synchronizer.Main - starting the synchronization of Production using com.kapowtech.synchronizer.git.GitSynchronizer
2023-05-12 13:49:52,887 INFO com.kapowtech.synchronizer.Main - done synchronizing Production be2fc677b5487c0550185eab2e84bc4d343d03fb
2023-05-12 13:49:52,888 INFO com.kapowtech.synchronizer.Main - starting the synchronization of NonProduction using com.kapowtech.synchronizer.git.GitSynchronizer
2023-05-12 13:49:54,807 INFO com.kapowtech.synchronizer.Main - done synchronizing NonProduction ae9e69db1ba4e6b411a6965e94ee1b176fe5b798
```

コマンド例 :

```
cd C:\Program Files\BizRobo Basic 11.4.0.2\bin
Synchronizer.exe -c --mc-url http://localhost:8080/mc11402
--oauth-client-secret-file "C:\BizRobo\secretfile.txt"
--interval 10 --no-host-key true --private-key "C:\Users\username\.ssh\id_rsa"
```

2. シンクロナイザーOAuthコマンド(6/6)

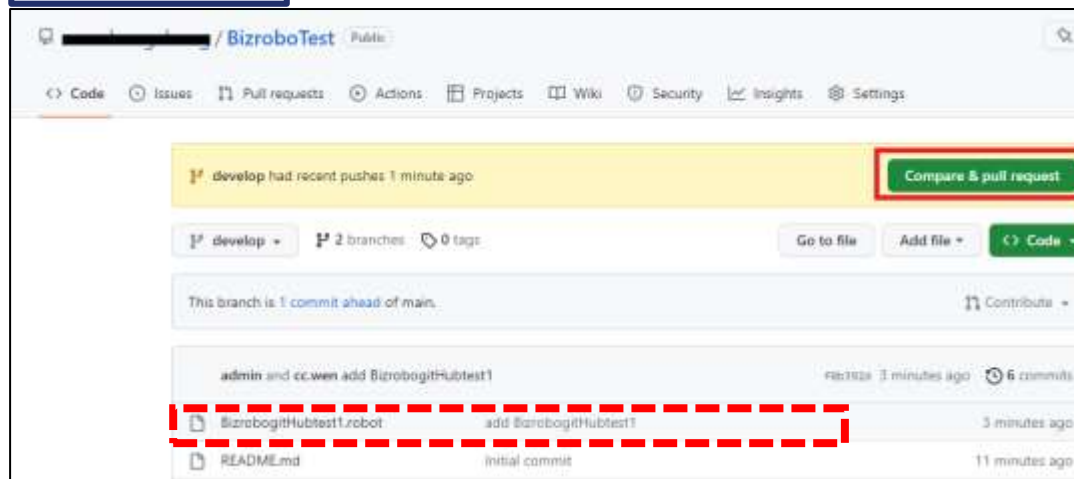
Synchronizer.exeを起動して、MCのロボットとGitHubにリポジトリ情報を同期することができました。

シンクロナイザーの詳細については、[BizRobo!ポータル](#)のドキュメントサイトにある以下手順書を参照してください。

「RobotLifecycleManagement_環境構築・運用手順書_GitHub連携編.pdf」

「RobotLifecycleManagement_環境構築・運用手順書_GitLab連携編.pdf」

GitHub



MC



3. フィックスパックでの同じデータベースの使用

- ・v11.4では、フィックスパックをインストールする際、データベース構造に変更がなければ、データベースを再利用できます。
- ・データベースを再利用する場合は、これまでアップデート時に行っていたデータベースの再作成およびバックアップ／リストアを行うことなく、Management ConsoleおよびKappletsのデータベースの接続先を設定ファイルにて引き継いでご利用ください。

※説明と制限事項は、各フィックスパックで提供されるReadMeに含まれています。
再利用が不可である場合はリリース時にリリースノート等でお知らせいたします。

- 11.4.0.2について
- 11.3→11.4の新機能について
- 不具合解決した事象**
- 11.4.0.2バージョンアップ時のロボットへの影響
- 11.4.0.2の既知の事象について

v11.4.0.2において下記の不具合が解決

	機能	事象	発生バージョン
1	MC	ログビューのフィルター設定に時間を設定することができません。 ナレッジ： https://knowledge.bizrobo.com/hc/ja/articles/4402830165389	11.1以降
2	MC	リポジトリ > デバイスマッピングで、名前に全角数字は利用できません。 ただし、移行元バックアップファイルにデバイスマッピング名称に全角数字が含まれている場合は、v11.3.0.3で復元して継続して利用できます。 ナレッジ： https://knowledge.bizrobo.com/hc/ja/articles/12324080265497	11.3.0.2以降
3	MC	リポジトリ > タイプにてフィルタに2バイト文字を設定した後に、更新ボタンを押下すると「表示するデータがありません」と表示されます。 また、フィルタに2バイト文字を設定した状態で別のタブに移動後にタイプに戻った場合、フィルタに設定していた値が文字化けします。正常な状態に戻すには、フィルタをクリアしてください。 スニペット、デバイスマッピング、データベースマッピングでも同事象が発生します。 ナレッジ： https://knowledge.bizrobo.com/hc/ja/articles/4403288519437	11.1以降
4	Kapplets	Kappletsの言語設定画面の「すべての設定をリセット」ボタンを押下すると、ログアウトメニューが機能しなくなります。 「すべての設定をリセット」ボタンを押下した場合は、一度ブラウザを閉じてKappletsを終了してください。再度ログインすることで復旧します。 ナレッジ： https://knowledge.bizrobo.com/hc/ja/articles/12633061458585	11.3.0.2以降
5	Kapplets	Kappletsに登録していたスケジュールが参照できずエラーが表示される場合があります。 エラーは登録したスケジュールが下記の状態の場合に発生します。 ・スケジュールが一時停止状態で「スケジュールされた最後の日」を設定しており、「スケジュールされた最後の日」を過ぎた場合 ・スケジュールの新規作成で、「スケジュールされた最初の日」と「スケジュールされた最後の日」とともに、現在の日付より過去日で設定した場合 ナレッジ： https://knowledge.bizrobo.com/hc/ja/articles/14802539328025	11.3.0.2以降

- 11.4.0.2について
- 11.3→11.4の新機能について
- 不具合解決した事象
- 11.4.0.2バージョンアップ時のロボットへの影響**
- 11.4.0.2の既知の事象について

v11.4.0.2にバージョンアップする場合

下位バージョンで作成したロボットへの影響が判明している事象は下記の通り

移行元バージョン	v11.4.0.2にバージョンアップ時の事象	対応方法
1 v10.3.x v10.4.x v10.7.x	読み取り専用で開いたExcel(View As Excel)に対して「Set Current Window」を行った際に、「Set Current Window」ステップのウィンドウ名称がv11.1以降では「View」と表示されます。v10.3.x～v10.7.xの日本語版DSでは「表示」となっているため、対象のバージョンのロボットをv11.4.0.2に移行した場合エラーとなります。	移行元または、移行先バージョンで、読み取り専用で開いたExcel(View As Excel)に対して「Set Current Window」を行う場合は、ウィンドウ名のリストの「表示」を「View」に変更します。
2 v10.3.0.2	DS内で新規Excelを開くとシート名が“シート”で指定しているためエラーとなります。	ファインダーでExcelのシート名に「シート」を設定している場合は、「sheet」に変更します。
3 v10.3.0.2	「Set Current Window」ステップにてウィンドウ設定に「名前がありません」が指定されているためエラーとなります。	「Set Current Window」ステップにてウィンドウ設定に「名前がありません」を設定している場合は、「Unnamed」に変更します。
4 v10.3.x v10.4.x v10.7.x v11.1.x	v11.3以降ではDSのロボットの設定 > 基本タブのデフォルトオプションの設定において「SSL証明書を検証」にデフォルトでチェックがオンの状態となります。 このチェックがオンの場合は、「ターゲット抽出(Extract target)」、「REST Webサービス呼出(Call REST Web Service)」、「SOAP Webサービス呼出(Call SOAP Web Service)」のステップをロボットで実行した時に、エラーが発生する場合があります。	下記どちらかの対応でエラーが回避できます。 ・クライアントにクライアント証明書をインストールします。 ・ロボット設定の「SSL証明書を検証」のチェックをオフに変更します。
5 v10.3.x v10.4.x v10.7.x	v11.1以降仕様変更により、Set Content of Cell(セルのコンテンツ設定)ステップでフォーマットを指定せず空白でShort Textの変数をセルに入力すると、v10.xのロボットとv11.xのロボットでは、挙動が異なる事があります。	適切なExcelのフォーマットを指定します。

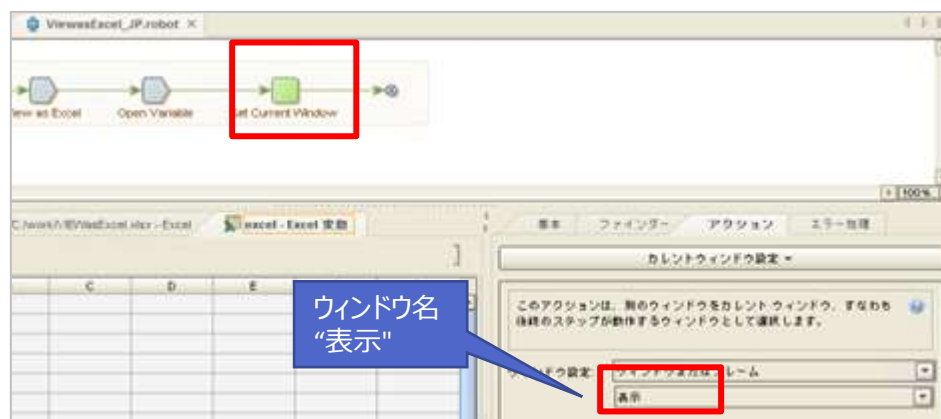
各事象の詳細については、次頁以降を参照ください。

※検証内容は、スキルトレーニングでよく利用されるステップを対象としています。

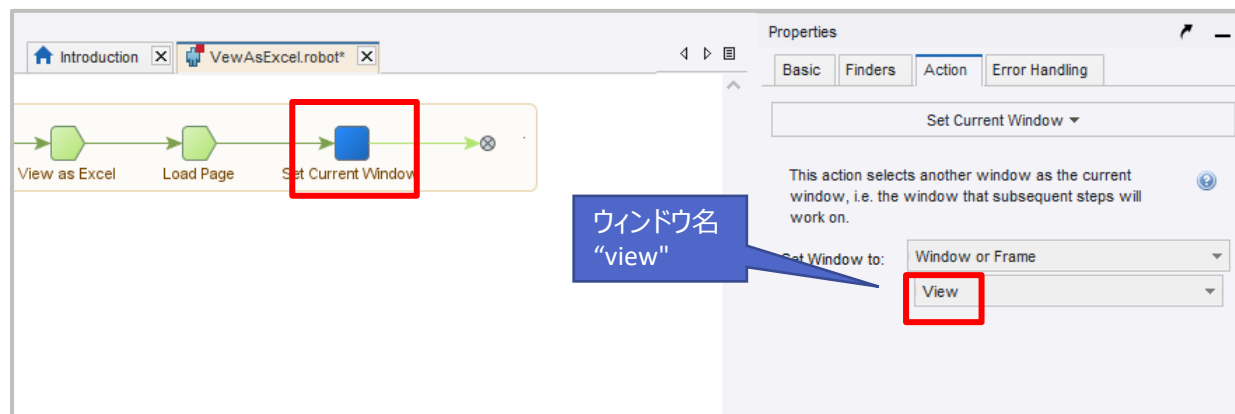
バージョンアップ時のロボットへの影響 (2/6)

項番	件名	詳細
1	View As Excelに対して行った「Set Current Window」(カレントウィンドウ設定) ステップにてエラー	読み取り専用で開いたExcel(View As Excel)に対して「Set Current Window」を行った際に、ウィンドウ名称はv10.3.xからv10.7.xの日本語版DSでは「表示」となりますが、v11.1以降では「View」となり異なるため、ロボットを実行するとエラーになります。

v10.3.x ~ v10.7.x



v11.1以降

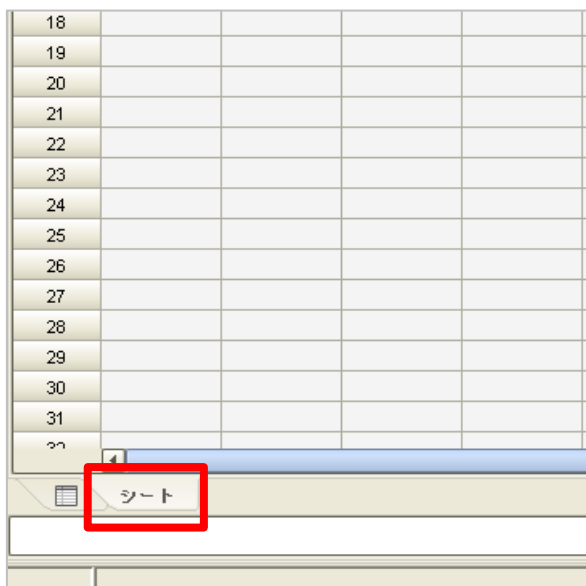


対応方法 ウィンドウ名のリストから「表示」を「View」に変更します。

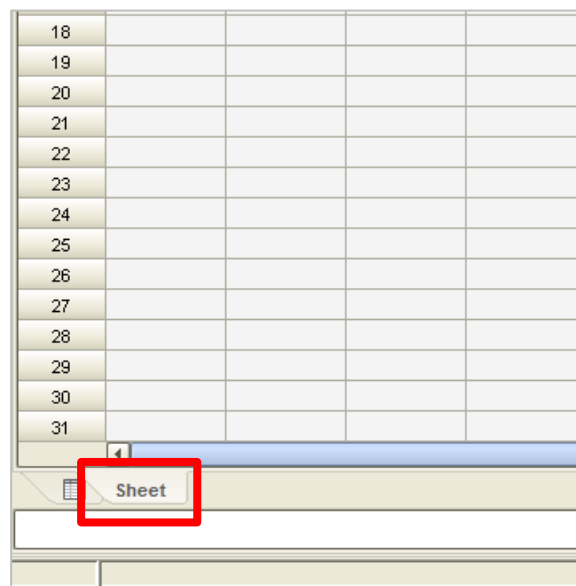
バージョンアップ時のロボットへの影響 (3/6)

項番	件名	詳細
2	セルのコンテンツ設定(Set Content of Cell)ステップにてエラー	v10.3.0.2のDS内で新規Excelを開くとシート名が“シート”となりますが、v10.3.0.7以降のバージョンはシート名が“Sheet”となり異なるため、ロボットを実行すると設定先のシートが特定できずエラーとなります。

v10.3.0.2



v10.3.0.7以降

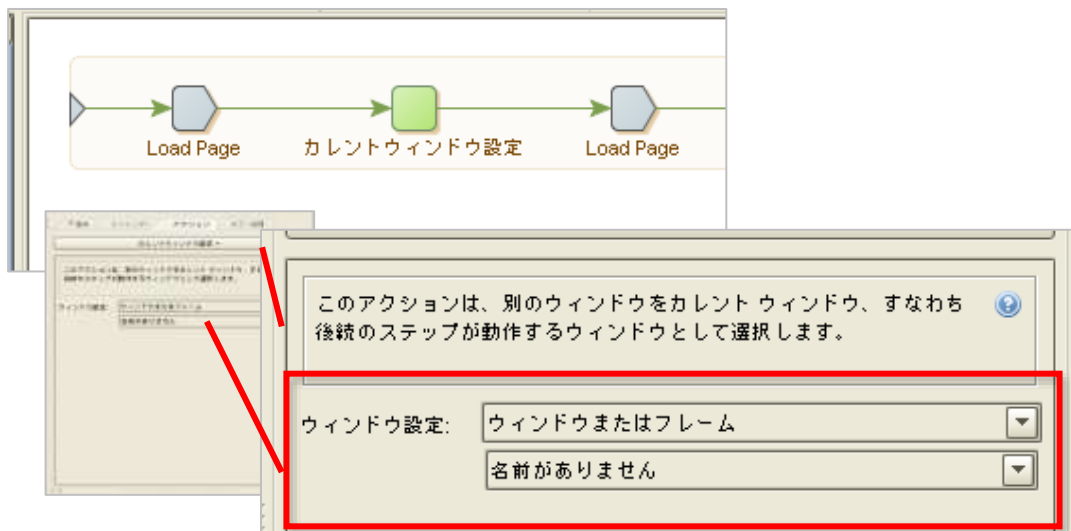


対応方法

ファインダーに設定しているシート名を“Sheet”に変更します。

項番	件名	詳細
3	カレントウィンドウ設定(Set Current Window)ステップにてエラー	Load Page アクションの前段に Set Current Window アクションが自動で生成されます。v10.3.0.2ではウィンドウ設定に「名前がありません」が設定されますが、v10.3.0.7以降のバージョンでは「Unnamed」と設定され異なるため、ロボット実行するとエラーとなります。

v10.3.0.2



v10.3.0.7以降



対応方法

カレントウィンドウ設定のウィンドウ設定を“名前がありません”を正しいウィンドウ名に変更します。

項番	件名	詳細
4	ターゲット抽出(Extract target)、REST Webサービス呼出(Call REST Web Service)、SOAP Webサービス呼出(Call SOAP Web Service)ステップにてエラー	DSのロボットの設定 > 基本タブのデフォルトオプションの設定において「SSL証明書を検証」がデフォルトでチェックがオンになっています。このチェックがオンの場合は、クライアント側にインストールされているクライアント証明書を使用してサーバと認証が行われます。そのためクライアントに証明書がインストールされていない場合エラーとなることがあります。

v11.3.0.2



対応方法 DSにクライアント証明書のインストール、もしくはロボットの設定「SSL証明書を検証」のチェックをオフに変更します。

参考ナレッジ : <https://knowledge.bizrobo.com/hc/ja/articles/12324872987417>

バージョンアップ時のロボットへの影響 (6/6)

項番	件名	詳細
5	v11.1以降仕様変更により、Set Content of Cell(セルのコンテンツ設定)ステップでフォーマットを指定せず空白でShort Textの変数をセルに入力すると、旧バージョンのロボットとv11.xのロボットでは挙動が異なる事があります。	Excelに「00404040」のような数値を割り当てた場合、過去バージョンではそのままの数値が入力されますが、v11.xでは数値として判定されるようになったため頭の00が省略されます。

v11.x

変数 フレーム

数値 > 数値

Excel

00404040

アプリケーション

about:blank Excel - Excel 変数

	A	B
1	1	
2		404040
3		

数値と判断して頭の“00”が消える

対処方法

セルのコンテンツ設定

このアクションは、スプレッドシート内の単一セルまたは複数セルの
ます。

コンテンツ: 数値

フォーマット: 00000000

アプリケーション

about:blank Excel - Excel 変数

	A	B
1	1	
2		00404040

対応方法 Excelの書式を明示的に指定する

参考ナレッジ : <https://knowledge.bizrobo.com/hc/ja/articles/4818756499225>

- 11.4.0.2について
- 11.3→11.4の新機能について
- 不具合解決した事象
- 11.4.0.2バージョンアップ時のロボットへの影響
- 11.4.0.2の既知の事象について**

未解消事象があるものの、回避策適用によりの影響は軽微

	機能	事象	影響度	回避策
1	Kapplets	v10.xで利用していたライセンスをv11.4に適用した場合、Kappletsではライセンスのユーザ数を超えて移行および、作成されたユーザはログインできなくなります。 v10.xからバージョンアップする場合はKappletsのユーザ数制限のないライセンスへ切り替えが必要となります。 v11.4を新規でご利用の場合は、ユーザ数制限のないライセンスが発行されます。	中	あり
2	Kapplets	v11.x以降のKappletsでは、Kappletの実行をメール通知する機能が実装されていません。	中	なし
3	Kapplets	v10.xMCのバックアップからv11.xのKappletsへ移行する場合、プロジェクト単位の移行（プロジェクト単位のエクスポート・インポート）ではKappletsの移行ができません。	中	あり
4	Kapplets	Kappletsのユーザー画面で無効にしたユーザーでも、Kappletsにログインできます。 ただし、Kappletsでの権限は無効となっているため、kappletの操作はできません。	小	なし
5	Kapplets	入力値を設定しているKapplet実行画面にて、「テンプレートの並べ替え」を押下すると、入力した入力値がクリアされます。	小	なし
6	Kapplets	OAuthCredentials型の入力値が存在するKapplet実行にて、「テンプレートの並べ替え」を押下すると、OAuthユーザーが選択できません。	小	あり

不具合の状況については、RPAT社のナレッジポータルにて随時最新の状況が公開されています。

BizRoboナレッジベース：<https://knowledge.bizrobo.com/hc/ja>

未解消事象があるものの、回避策適用によりの影響は軽微

	機能	事象	影響度	回避策
7	MC	過去に作成したスケジュールを編集する場合、開始日付を現在日付以降を設定しないと、OKボタンを押せません。	小	あり
8	MC	MCのリポジトリおよびスケジュールの表示において、情報が重複して表示されることがあります。本事象は、表示画面でデータをソート、もしくは全件表示できる件数で画面を表示すると解消します。	小	あり
9	MC	ログビューのフィルタ日時の設定において開始と終了に月日を設定すると、自動で「00:00」と「23:59」が設定されますが、OKボタンを押下後、画面に設定されるフィルタが終了の時間に「00:00」が設定され該当なしとなります。 例) 5/1 00:00 ~ 5/1 23:59をフィルタで設定 5/1 00:00 ~ 5/1 00:00が設定されて、該当なしとなる	小	あり
10	MC	ログビュー > スケジュール実行のコンテキストメニュー「この実行からメッセージを削除」を選択しても、スケジュールメッセージは削除されません。	小	あり
11	MC	ログビュー > スケジュール実行のコンテキストメニュー「現在のフィルタに一致する実行(xx)からすべてのメッセージを削除」を選択しても、スケジュールメッセージは削除されません。	小	あり

不具合の状況については、RPAT社のナレッジポータルにて随時最新の状況が公開されています。

BizRoboナレッジベース：<https://knowledge.bizrobo.com/hc/ja>

未解消事象があるものの、回避策適用によりの影響は軽微

	機能	事象	影響度	回避策
12	MC	ログビュー > ロボット実行のコンテキストメニュー「この実行のメッセージを削除」を選択すると、実行のメッセージは削除できますが、スケジュールメッセージが存在しないというエラーになります。	小	なし
13	MC	ログビュー > ロボット実行のコンテキストメニュー「現在のフィルターに一致する実行（件数）からのすべてのメッセージを削除」を実行するとエラーメッセージが表示されます。	小	なし
14	MC	MC > バックアップで「プロジェクトのインポート」を行うとエラーとなる場合があります。 発生条件は以下の通りです。 インポートするプロジェクトに、スケジュールとトリガーマッピングの両方が存在すること。	小	あり
15	DS	DSのエクスペッションなどで表示される関数が解像度：1920 × 1080のディスプレイでは全てを表示できません。	小	あり

不具合の状況については、RPAT社のナレッジポータルにて随時最新の状況が公開されています。

BizRoboナレッジベース：<https://knowledge.bizrobo.com/hc/ja>

v11.4.0.2の既知の事象 (4/18)

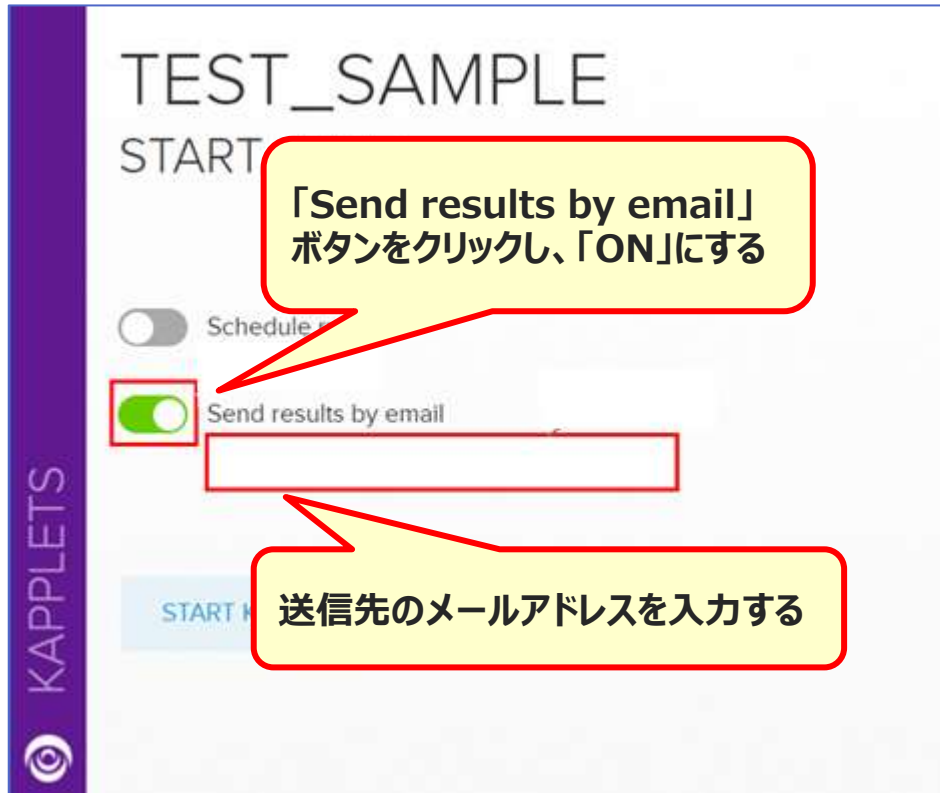
項番1：v10.xで利用していたライセンスをv11.4に適用した場合、Kappletsではライセンスのユーザ数を超えて移行および、作成されたユーザはログインできなくなります。v10.xからバージョンアップする場合は、Kappletsのユーザ数制限のないライセンスへ切り替えが必要となります。

The screenshot shows the login interface for KOFAX RPA Kapplets. At the top left, the logo reads "KOFAX RPA Kapplets". The main content area contains a login form with the heading "ログインしてください" (Please log in). Below the heading are input fields for "ユーザー名" (Username) and "パスワード" (Password), followed by a blue "ログイン" (Login) button. A red-bordered callout box on the right contains the text: "ユーザ数の制限を超えている場合、エラーとなりログイン不可" (If the user limit is exceeded, an error will occur and login will be impossible). A red-bordered box highlights an error message in the center: "ライセンスで許容されている一時的ユーザ数の上限に達しました。管理者に連絡してください。" (The limit of temporary users allowed by the license has been reached. Please contact the administrator.). At the bottom center, the text reads "Powered by Kofax RPA™ Kapplets 11.0.4.402".

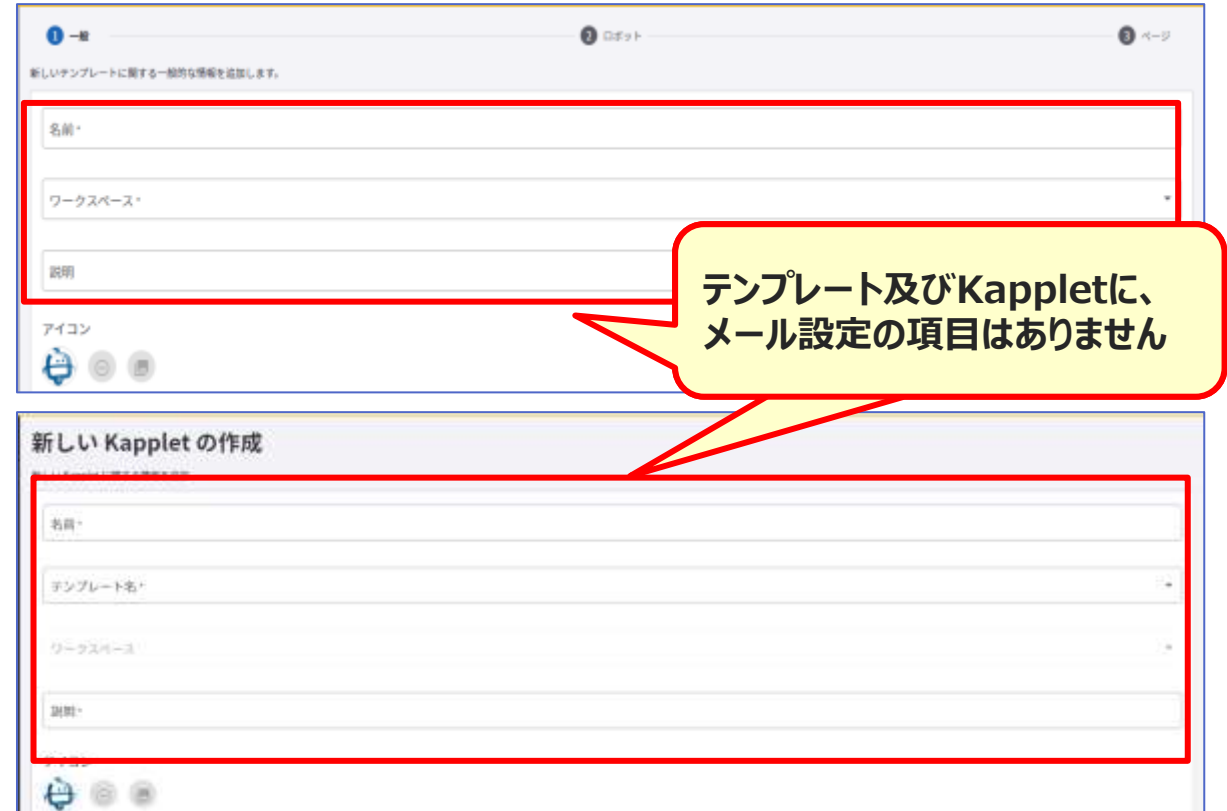
v11.4.0.2の既知の事象 (5/18)

項番2 : v11.x以降のKappletsでは、Kappletの実行をメール通知する機能が実装されていません。
v10.xのKappletでは、下記のような設定をすることで、Kappletの実行をメール通知することができました。
v11でKappletが一新されましたが、本機能は現在未実装となっています。

v10.x



v11.3



※Kappletの実行をメール通知するためにはMCでのアドレス設定とKappletでの設定が必要となります。

v11.4.0.2の既知の事象 (6/18)

項番3 : v10.xMCのバックアップからv11.xへ移行する場合、v11からKappletsの構成が大きく変わったため、プロジェクト単位の移行（プロジェクト単位のエクスポート・インポート）ではKappletsの移行ができません。Kappletsの移行では、フルバックアップからの一括移行を実施してください。

v10.x



v11.3



v11.4.0.2の既知の事象 (7/18)

項番4 : Kappletsのユーザー画面で無効にしたユーザーでもKappletsにログインできます。
ただし、Kappletsでの権限は無効となっているため、kappletの操作はできません。

有効	電子メール	タイプ	グループ	権限
<input checked="" type="checkbox"/>	Administrator	Management Console		管理者
<input type="checkbox"/>	テスト ユーザ01	Management Console	カブレット管理者	

テスト ユーザ01は無効の状態



テスト ユーザ01でログインできる

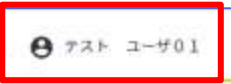
権限がないので操作は不可

必要な権限がありません

権限がないので操作は不可

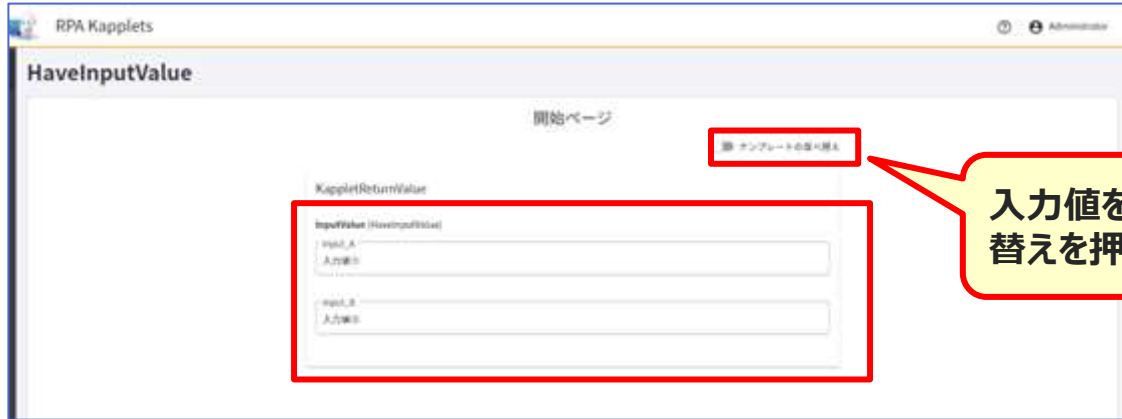
必要な権限がありません

テスト ユーザ01でログインできる

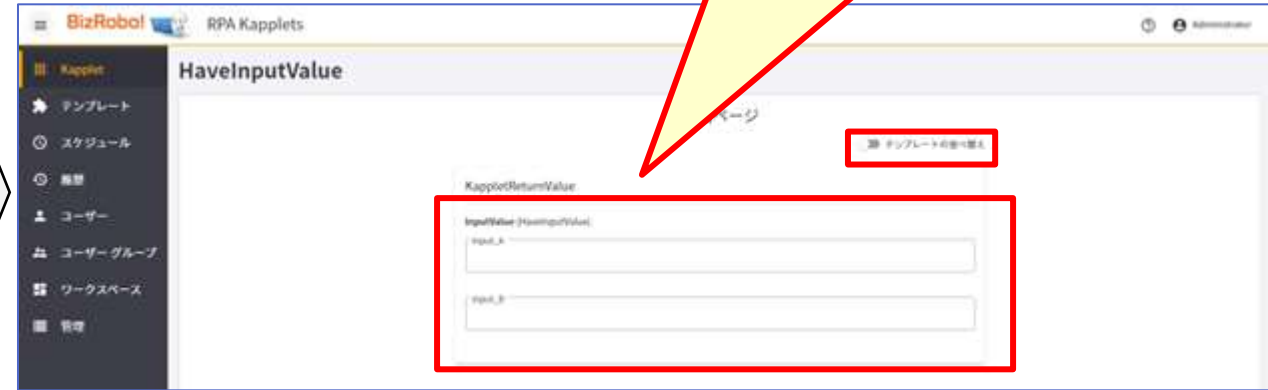


v11.4.0.2の既知の事象 (8/18)

項番5：入力値を設定しているKapplet実行画面にて、「テンプレートの並べ替え」を押下すると、入力した入力値がクリアされます。



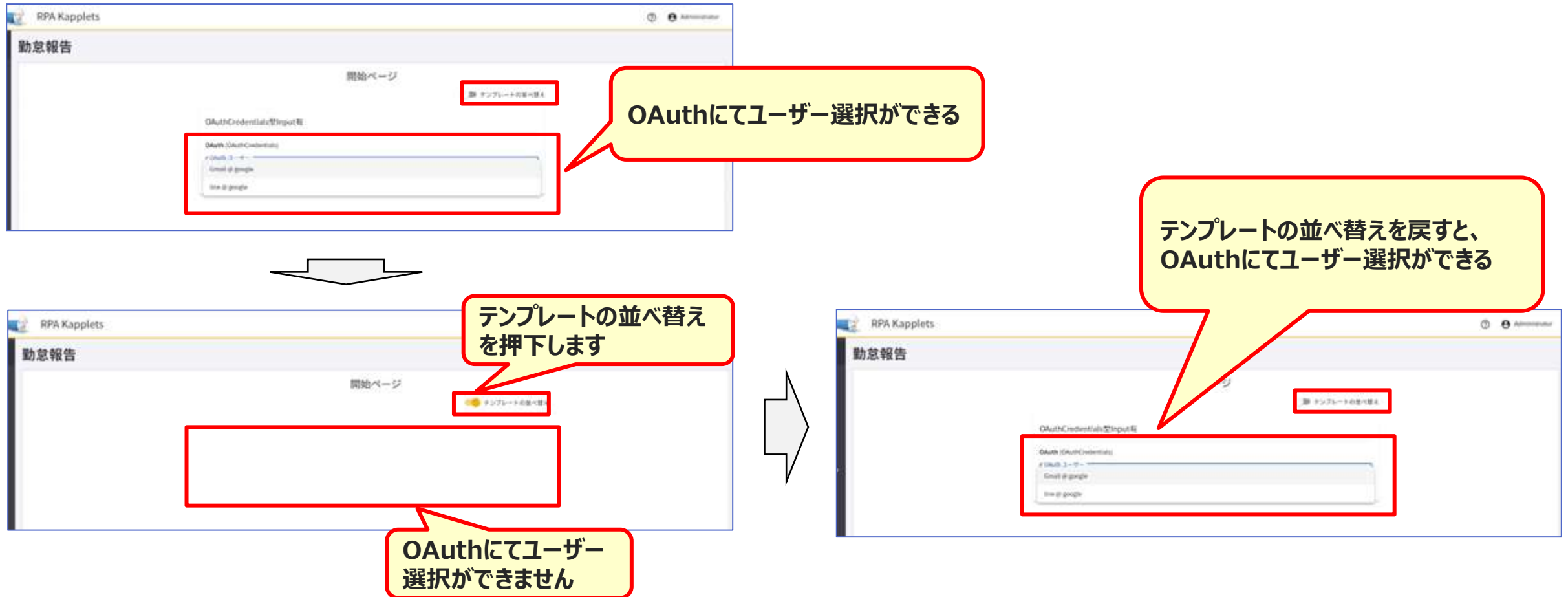
入力値がクリアされる



並び替えを戻しても、入力した値は復活しません

v11.4.0.2の既知の事象 (9/18)

項番6 : OAuthCredentials型の入力値が存在するKapplet実行にて、「テンプレートの並べ替え」を押下すると、OAuthユーザーが選択できません。



v11.4.0.2の既知の事象 (10/18)

項番7：過去作成したスケジュールを編集する場合、開始日付を現在日付以降を設定しないとOKボタンは押せません。

The screenshot shows a web form for editing a schedule. The form includes fields for 'スケジュール名*' (DS_90秒待機するロボット), 'アクティブ' (unchecked), 'シンプル' (selected), 'cron' (unchecked), '繰り返し間隔*' (1分), '開始時間 (ローカル時間)*' (12:30), '日付を選択*' (2022/8/3), 'ジョブの優先順位*' (中), 'ジョブのタイムアウト*' (10分), '前処理ロボット', and '後処理ロボット'. At the bottom are 'キャンセル' and 'OK' buttons. Two callouts are present: one pointing to the date field with the text 'スケジュールの編集を行う場合、日付が過去日になっていると保存ができない' and another pointing to the 'OK' button with the text 'OKボタンは非活性のまま'.

スケジュール名*
DS_90秒待機するロボット

アクティブ シンプル cron

繰り返し間隔*
1 分

開始時間 (ローカル時間)*
12:30

日付を選択*
2022/8/3

ジョブの優先順位*
中

ジョブのタイムアウト*
10 分

前処理ロボット

後処理ロボット

キャンセル OK

スケジュールの編集を行う場合、日付が過去日になっていると保存ができない

OKボタンは非活性のまま

v11.4.0.2の既知の事象 11/18)

項番8：MCのリポジトリおよびスケジュールの表示において、情報が重複して表示されることがあります。本事象は、表示画面でデータをソート、もしくは全件表示できる件数で画面表示すると解消します。下記画面で事象の発生を確認しています。

スケジュール、パスワードストア、ロボットファイルシステム（下記画面イメージはスケジュール画面）

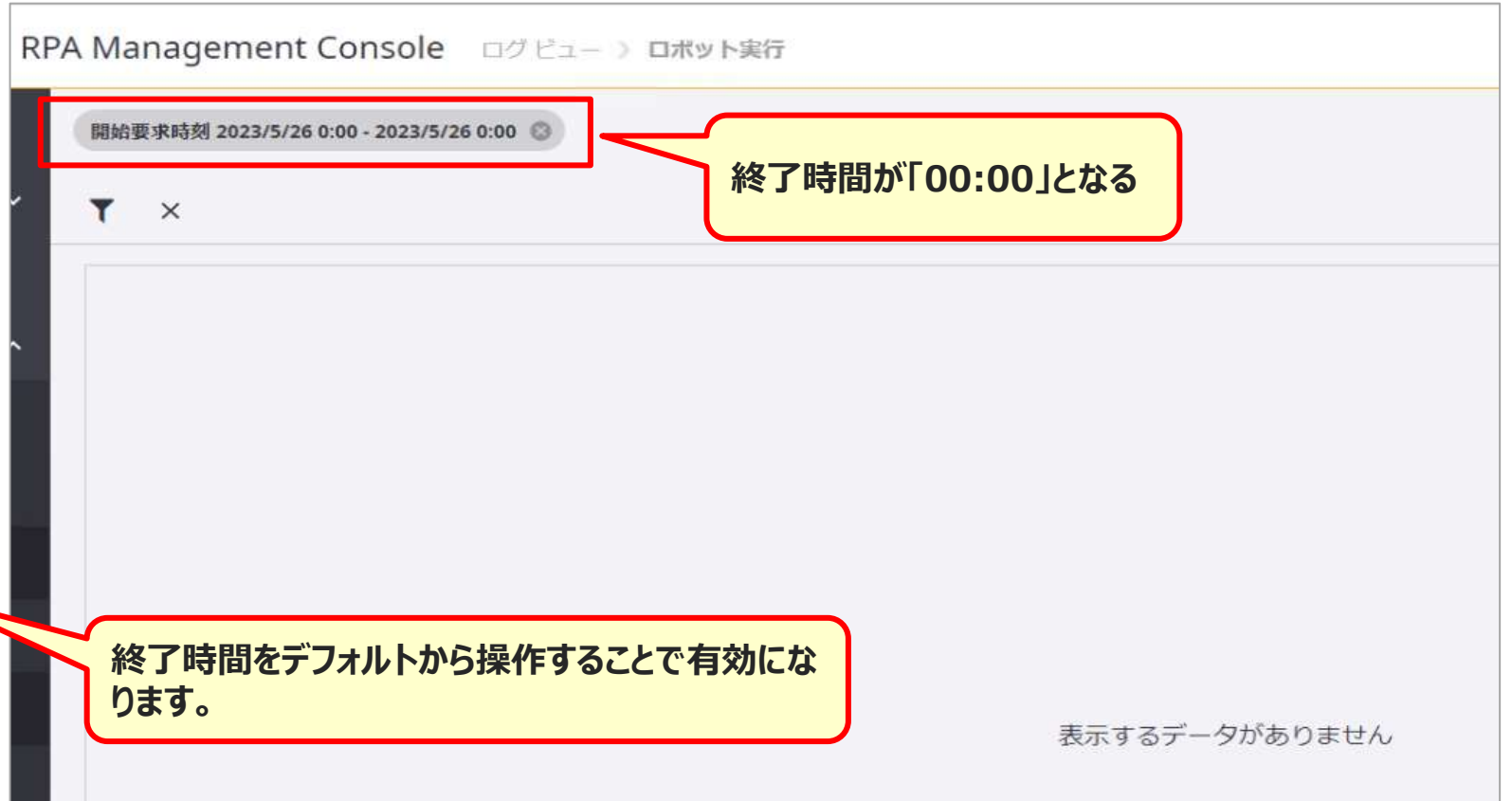
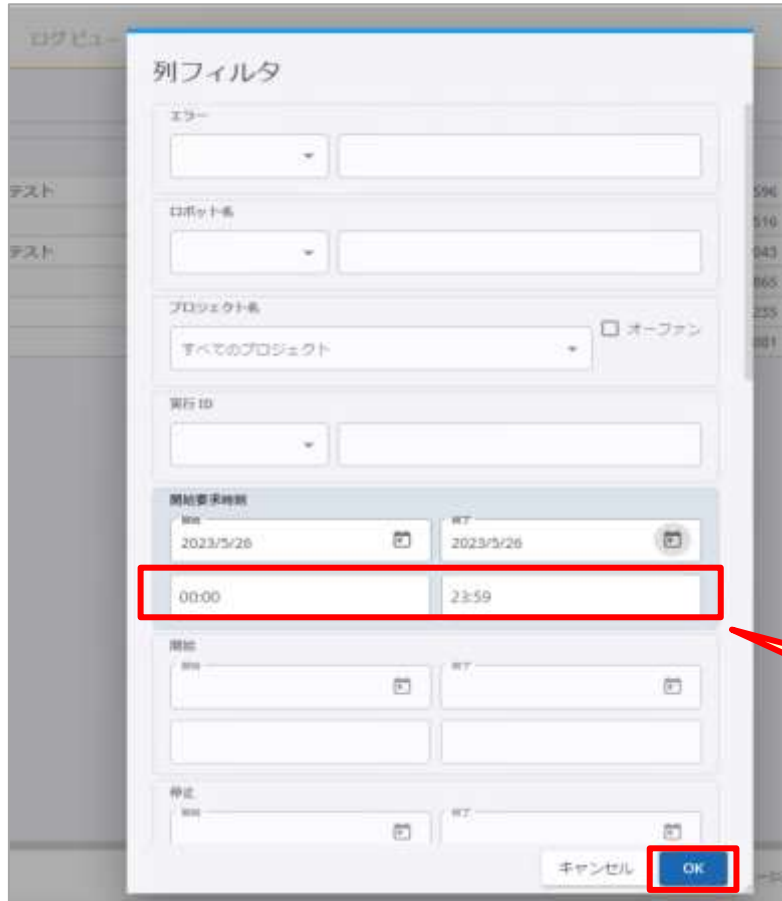
1ページ目（左図）と2ページ目（右図）で同じスケジュール情報が重複して表示され、本来登録されているスケジュールが見えない状態となります

ページごとの表示数：10件
総件数：15件

アクティブ	名前	プロジェクト名	ジョブカウント	次の実行	前の実行	間隔	合計実行数	エラー	ロボットのエラー
<input type="checkbox"/>	DA接続確認1	Default project	1 (1)	2023/5/19 16:45	2023/5/19 16:40	5分ごと	1	0	0
<input type="checkbox"/>	DA接続確認2	Default project	1 (1)	2023/5/19 16:45	2023/5/19 16:40	5分ごと	1	0	0
<input type="checkbox"/>	確認ロボット実行	Default project	1 (1)	2023/5/19 16:45	2023/5/19 16:10	5分ごと	18	0	0
<input type="checkbox"/>	RFSを確認1	Test01 Project	1 (1)	2023/5/19 16:45	2023/5/19 16:10	5分ごと	14	0	0
<input type="checkbox"/>	RFSを確認2	Test01 Project	1 (1)	2023/5/19 16:45	2023/4/17 11:00	5分ごと	1155	該当なし*	該当なし*
<input type="checkbox"/>	スケジュール1	Test01 Project	1 (1)	2023/5/19 16:45					
<input type="checkbox"/>	スケジュール1.0	Test01 Project	1 (1)	2023/5/19 16:45					
<input type="checkbox"/>	スケジュール2	Test01 Project	1 (1)	2023/5/19 16:45					
<input type="checkbox"/>	スケジュール3	Test01 Project	1 (1)	2023/5/19 16:45					
<input type="checkbox"/>	スケジュール4	Test01 Project	1 (1)	2023/5/19 16:45					

v11.4.0.2の既知の事象 (12/18)

項番9：ログビューのフィルタ日時の設定において開始と終了に月日を設定すると、自動で「00:00」と「23:59」が設定されますが、OKボタンを押下後、画面に設定されるフィルタが終了の時間に「00:00」が設定され該当なしとなります。



v11.4.0.2の既知の事象 (13/18)

項番10 : ログビュー > スケジュール実行

コンテキストメニュー「この実行からメッセージを削除」を選択しても、スケジュールメッセージは削除されません。
スケジュールメッセージを削除する場合は、ログビュー>スケジュールメッセージの画面で削除してください。

The screenshot shows the BizRobo! RPA Management Console interface. The left sidebar contains navigation items: スケジュール, リポジトリ, データビュー, ログビュー, **スケジュール実行**, スケジュール メッセージ, ロボット実行, and ロボット メッセージ. The main area displays a table of scheduled task executions. A context menu is open over the table, with the option 'この実行からメッセージを削除' highlighted in red. A callout bubble points to this option with the text: 'このメニューを選択しても対象のスケジュールメッセージは削除されません'.

エ...	ロボッ...	スケジュール名	実行ID	プロジェクト名	開始	停止	MCサ...	キュー...	合計時間	警告	情報	
0	0	DA...			2023-05-19 16:55:15.004	2023-05-19 16:55:38.599	lsyncrq001...	230	23595	0	1	19
この実行からメッセージを表示												
このスケジュールのすべての実行												
ロボットの実行を表示												
ロボットのエラーを表示												
この実行からメッセージを削除												
この実行とすべてのメッセージを削除												
現在のフィルタに一致する実行 (38) からのすべてのメッセージを削除												
現在のフィルタに一致するすべての実行 (38) とそのメッセージを削除												

v11.4.0.2の既知の事象 (14/18)

項番11：ログビュー > スケジュール実行

コンテキストメニュー「現在のフィルタに一致する実行(xx)からすべてのメッセージを削除」を選択しても、スケジュールメッセージは削除されません。

スケジュールメッセージを削除する場合は、ログビュー>スケジュールメッセージの画面で削除してください。

BizRobot! RPA Management Console ログビュー > スケジュール実行

開始 - 2023/5/19 16:59

エ...	ロボッ...	スケジュール名	実行 ID	プロジェクト名	開始	停止	MC サ...	キュー...	合計時間	警告	情報	
0	0	DA接続確認2	1163	Default project	2023-05-19 16:55:15.004	2023-05-19 16:55:38.599	lsyncrq001...	230	23595	0	1	19
この実行からメッセージを表示												
このスケジュールのすべての実行を表示												
ロボットの実行を表示												
ロボットのエラーを表示												
この実行からメッセージを削除												
この実行とすべてのメッセージを削除												
現在のフィルタに一致する実行 (8) からのすべてのメッセージを削除												
現在のフィルタに一致するすべての実行 (8) とそのメッセージを削除												

このメニューを選択しても対象のスケジュールメッセージは削除されません

v11.4.0.2の既知の事象 (15/18)

項番12 : ログビュー > ロボット実行

コンテキストメニュー「この実行のメッセージを削除」を選択すると、実行のメッセージは削除できますが、「スケジュールメッセージが存在しない」というエラーが表示されます。

The screenshot shows the BizRobot! RPA Management Console interface. On the left is a navigation menu with items like 'スケジュール', 'リポジトリ', 'データビュー', 'ログビュー', 'スケジュール実行', 'スケジュールメッセージ', 'ロボット実行', 'ロボットメッセージ', and 'ロボットの概要'. The main area displays a table with columns for 'エラー', 'ロボット名', 'プロジェクト名', and '実行ID'. Two rows are visible, both with '0' in the error column and 'testWait10s' in the robot name column. A context menu is open over the second row, with the option 'この実行からメッセージを削除' highlighted. A red box highlights the error count '0' in the first row.

エラー	ロボット名	プロジェクト名	実行ID
0	testWait10s	Default project	-1-10-328628245a1cc
0	testWait10s	Default project	-1-9-328628245a1cc
		project	20066-7-328628245a1cc

エラーメッセージが表示される

The screenshot shows a red error message dialog box with the text: "'20010' 実行ID のスケジュールメッセージが見つかりません'. The dialog has a close button (X) in the top right corner.

対象メッセージは削除されている

The screenshot shows the BizRobot! RPA Management Console interface with the 'メッセージ' (Messages) view selected. It displays a list of messages with columns for '実行ID', 'メッセージ', 'ステータス', '実行日時', '実行ID', and 'ロボット名'. Two messages are visible, both with status 'Success'.

実行ID	メッセージ	ステータス	実行日時	実行ID	ロボット名
2023-08-25 17:05:44.081	Execution started	Success	2023-08-25 17:05:44.081	-1-10-328628245a1cc	testWait10s
2023-08-25 17:05:44.087	Execution started	Success	2023-08-25 17:05:44.087	20066-7-328628245a1cc	testWait10s

v11.4.0.2の既知の事象 (16/18)

項番13 : ログビュー > ロボット実行

コンテキストメニュー「現在のフィルタに一致する実行 (件数) からのすべてのメッセージを削除」を実行するとエラーメッセージが表示されます。

The screenshot shows the BizRobo! RPA Management Console interface. The left sidebar contains navigation items: スケジュール, リポジトリ, データビュー, ログビュー, スケジュール実行, スケジュールメッセージ, **ロボット実行**, ロボットメッセージ, ロボットの概要, and RoboServer メッセージ. The main area displays a table with columns: エラー, ロボット名, プロジェクト名, and 実行 ID. The table contains three rows, all with '0' in the error column and 'testWait10s' in the robot name column. A context menu is open over the second row, with the option '現在のフィルタに一致する実行 (3) からのすべてのメッセージを削除' highlighted in red. A red box also highlights the error count '0' in the first row.

エラー	ロボット名	プロジェクト名	実行 ID
0	testWait10s	Default project	20061-5-328628245a1cc
0	testWait10s	Default project	
0	testWait10s	Default project	

エラーメッセージが表示される

指定した検索パラメータが正しくありません: robotName:CONTAINS: X

The screenshot shows the BizRobo! RPA Management Console interface after the deletion action. The table is empty, and a message at the bottom right states '表示するデータがありません' (No data to display). A red box highlights the empty table area.

削除はされている

v11.4.0.2の既知の事象 (17/18)

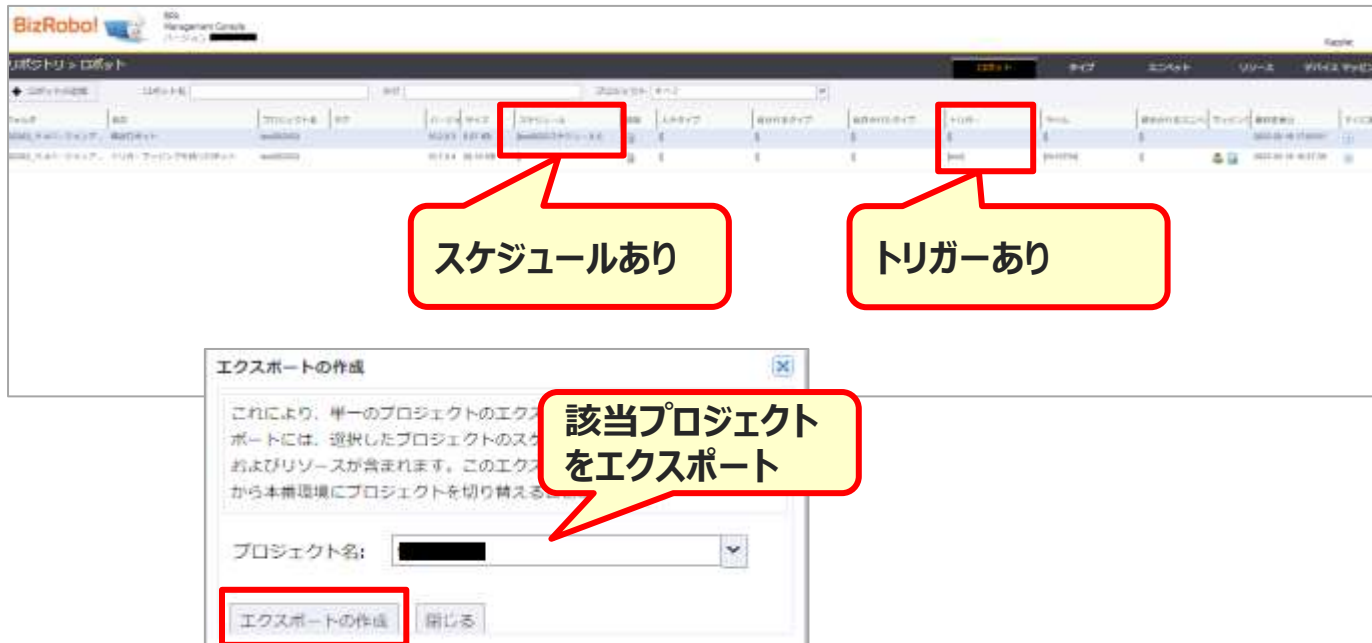
項番14：MC > バックアップで「プロジェクトのインポート」を行うとエラーとなる場合があります。

発生条件：スケジュールとトリガーを含むプロジェクト

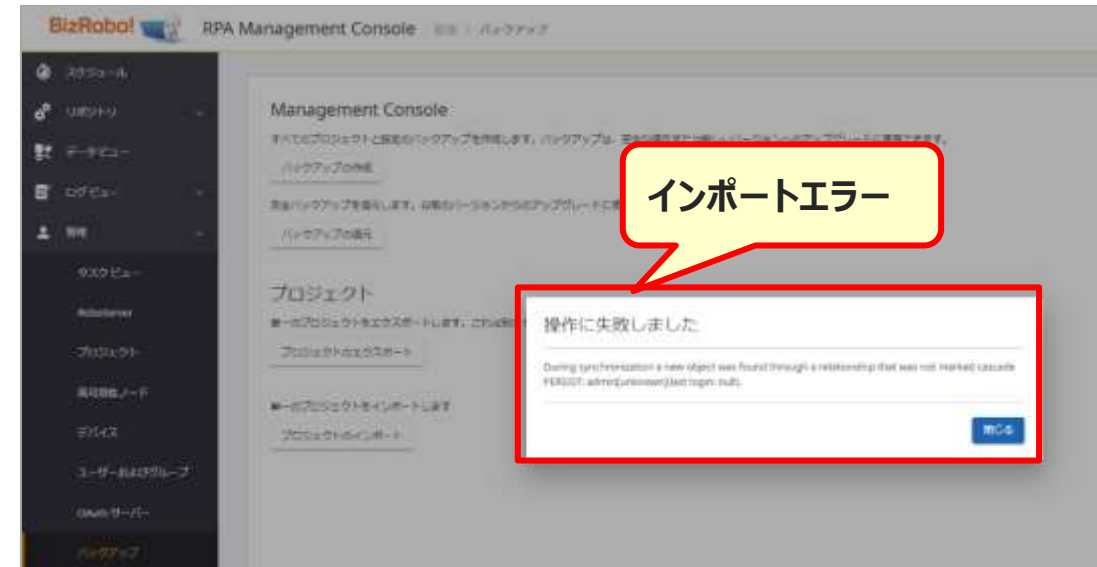
以下いずれかの方法でリストアしてください

1. フルバックアップ/リストアで移行する
2. プロジェクトのインポート時に、スケジュールとプロジェクトを対象外にしてインポートした後、改めてスケジュールとプロジェクトを対象にしてインポートする

v10.x



v11.4

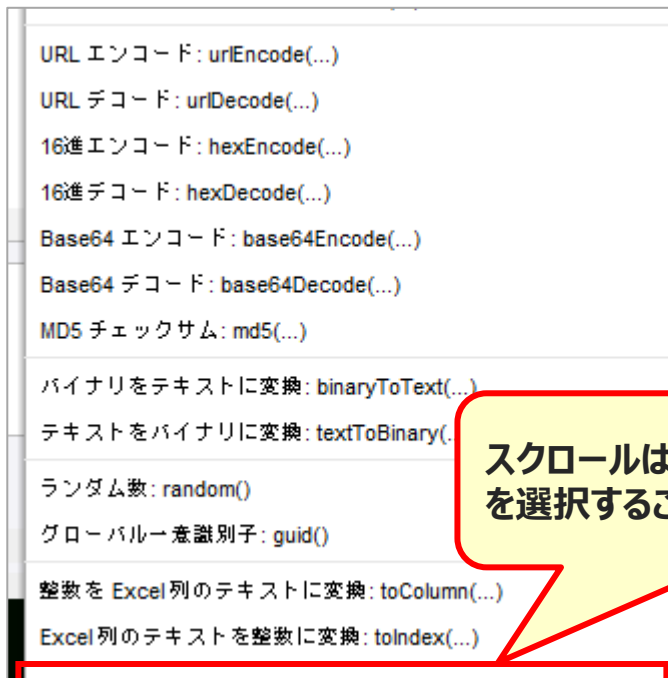
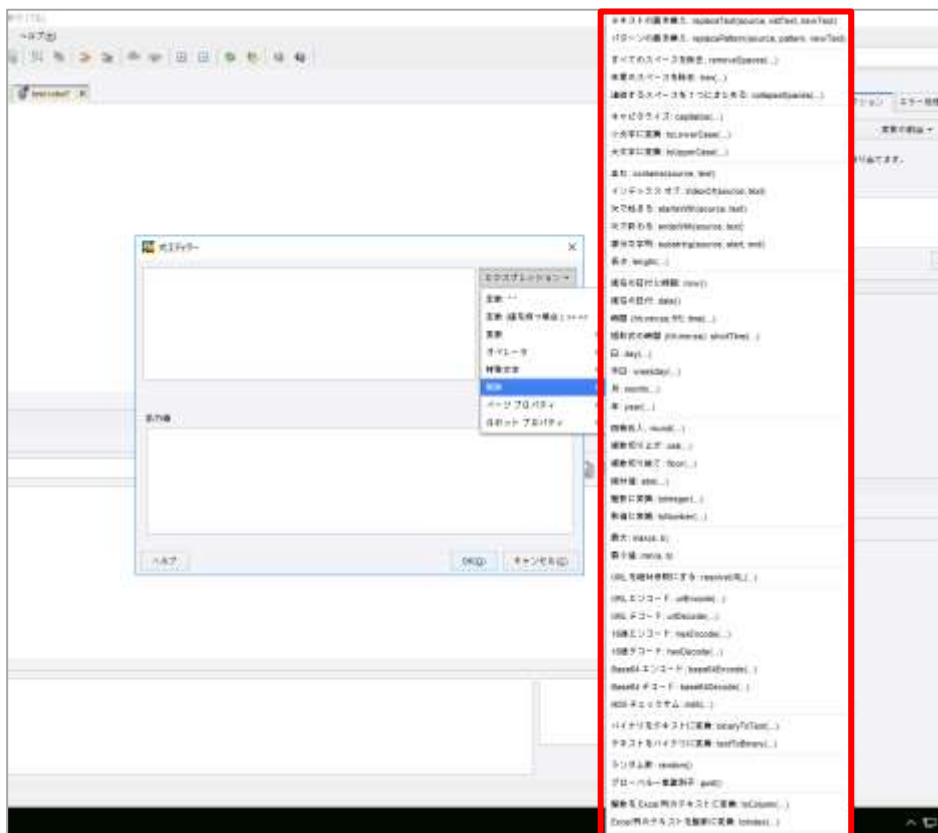


v11.4.0.2の既知の事象 (18/18)

項番15 : DSのエクスペッションなどで表示される関数リストが、
解像度 : 1920 × 1080のディスプレイでは全てを表示できません。

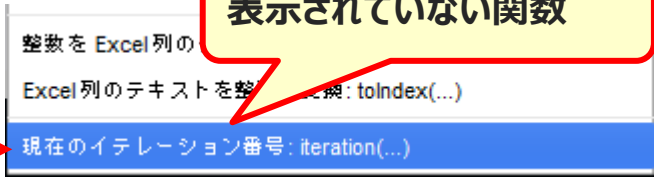
リストに表示されない関数は式エディタで直接入力してください。

対象 : 「現在のイテレーション番号:iteration」



スクロールはできず、隠れている関数
を選択することができない

表示されていない関数



 SoftBank